

和久正
戸送

西史學要

卷六

福岡第一師範學校
(學校圖書)

| | | |
|-----------|---------|---|
| 登錄 番號 | 第 | 號 |
| | | 門 |
| 北アメリカ州史 部 | | |
| アメリカ合衆國 | 總記 | 項 |
| 輿圖 | 年表 | 次 |
| 全 | 冊ノ内第 | 冊 |
| 分類 番號 | 第 | 號 |
| | 253.038 | |

T 1A 7
24
W 35

西史學要卷六

米國 烏斯多爾原撰
日本 和久正辰譯述

歐洲列國史

英佛以外歐洲列國ノ史乘ハ其關係重大ナラス
米國人民ニ於テ殊ニ然リトス因テ茲ニ其大綱
ヲ列叙シ兼テ表ヲ製シ以テ帝王繼立ノ要略ヲ
明示セントス

蘇古蘭史

(一) 蘇古蘭ノ人民自ラ稱シテ萬世一系ノ王統アリト為ス是レ往古アレキサンドル偉帝ノ時ニ淵源スト雖氏絶ヘテ正史ノ之ヲ証ス可キモノナシ紀元後四百十年羅馬人ノ不烈顛ヲ去ルニ當リ國內分裂シテ數種ノ族類ヲ成シ互ニ相鬪フ中ニ就テ最モ勢力アルモノハスコツツ族及ヒピツクツ族ナリ八百三十八年ヨリ八百四十三年ニ至リケンニス茅二世ピツクツ族ヲ伐テ之ヲ夷ケ遂ニ全國ニ君臨ス

(二) 蘇英兩國ノ君主相戰フ三再當ラスエドワ

ード茅一世位ニ在ルノ日遂ニ之ヲ征服ス後チ英傑ソルウイレムムワルラス及ヒロベルト、ブリウスバンノツクボルンノ決戰ヲ以テ大ニ英軍ヲ破リ自ラ王祚ヲ踐ム

(三) 千五百六十七年彼ノ有名ナル女王マリイ位ヲ退キ其子ゼームス茅六世幼冲ニシテ王タリ千六百三年英國ノ王位ヲ繼ク是ヨリ蘇英兩國一君同體ノ治下ニ屬シ女王アンノ時終ニ之ヲ一統シ永ク聯合ス實ニ千七百六年ナリ爾後

蘇古蘭ノ貴族英國ノ上院ニ列シ又タ代議士ヲ
其下院ニ出スニ至レリ

日耳曼史

(一) 八百四十三年歐西帝國ヲ分テ佛蘭西日耳
曼及ヒ伊太里ノ三王國ト為ス八百八十七年チ
ヤールレス肥王御宇ノ末年帝位ヲ舉ケテ日耳曼
ニ移ス歐洲ノ史乘ニ於テ特ニ其國ヲ稱シテ帝
國ト曰ヒ其民ヲ名ケテ帝臣ト曰フ而シテ第十
世紀ニ至リヘンリー獵王及ヒ其子オソ偉王相

繼テ之ヲ治ム五十餘年オソハ當世ノ英主ナリ
遂ニ伊太里ヲ併ス

(二) ヘンリー第四世時ニ或ハ偉帝ノ副號アリ
位ニ在ルノ日第十一世紀ノ末ニ至リ羅馬教王
グレゴリー第七世（原フエルト）ト争ヲ起
シ竟ニ自ラ屈シテ其命ニ從フ而シテ其事特ニ
史乘ニ著ハルコシラード第三世撰ハレテ教王
ノ位ニ登ルニ及テ教王黨帝王黨ノ二大派ヲ生
シ三世紀ノ間ニ亘リテ日伊兩國之力為ニ擾動
ス其間帝權漸ク衰ヘ教王ノ勢威益加ハル帝王

黨ハ帝王ヲ輔翼シ教王黨ハ教王ニ隨從ス

(三) フレデリツキ第一世バルバロサ又ハ赤鬚^レノ副號アリ位ニ在ルノ日羅馬教王アレキサン
ドル第三世ト争フヲ以テ其名特ニ著ハル後テ
十字軍ヲ起シテ聖土ニ至リ千百九十年シリシ
アノ一小流ニ溺死スコンラード第四世殂スル
ノ後テ羅馬全國大ニ亂ルモノ千九年ニ及フ之
ヲ名ケテ大空位^{グレゴリウス}ト曰フ千二百七十三年瑞西ハ
スグバルグノ伯爵ロドルフ推サレテ教王ノ位
ニ即キ事平ク

(四) フラ子オニアン統ノ歷帝及ヒスワハビア
ン統ノ君主治世ノ末年ニ至リ日帝羅馬教王ト
釁隙ヲ生スルモノ延テ數年ニ及フ之ヲ事變ノ
大ナルモノトス即チ其争鬪ノ要因ハ第一ニハ
日帝ハ牧師ノ職空位ナルキ其後任ヲ指名シ及
ヒ之ニ俸祿ヲ與フルノ權アリト為スニ在リ第
二ニハ羅馬教王ハ日帝ノ所轄ヲ離レ伊太里ノ
田産ヲ所有セント欲スルニ在リ第三ニハ羅馬
教王ハ耶蘇教界到ル處政教無上ノ權アリトス
ルニ在リ

(五) ロイス第四世ノ位ニ在ルヤ羅馬教王ジヨ
 ン第廿二世ト爭端ヲ發キ國內鼎沸ス羅馬教王
 ロイスヲ教外ニ放テ交ヲ絶テ其推撰ヲ以テ效
 ナシトス是ニ於テ日帝マタジヨンヲ廢ス千三
 百三十八年國內ノ諸候フランクフルトニ會
 シ彼ノ有名ナル憲法ヲ制定シ之ヲ名ケテ中裁
 條規ト曰フ是ニ於テ羅馬教王日耳曼皇帝ノ推
 撰ヲ可否スルノ權ナキニ至レリ

(六) シジスモンドノ時國人羅馬教王ノ職權ヲ
 論シ爭終ニ決セス因テ恒久公會コンスタンツヲ興シ之カ當

否ヲ斷定セシム而シテ其事特ニ著ハル千四百
 十五年衆議一決シジヨン、ホツス及ヒジヨレ
 ム、オフ、プラギウヲ以テ異端ノ罪アリト為シ乃
 チ行政刑吏ニ付シテ之ヲ焚殺セシム其徒ノホ
 ヘミアニ在ルモノ戈ヲ把テ起リ其首領ジスカ
 ヲ推シテ之カ將帥ト為シシジスモンドニ抗シ
 テ其宗教ヲ維持スルモノ十六年ニ及ヘリ

(七) 千四百七十七年マキシミアン第一世姻
 戚ヲ以テ紐折爾蘭ノ王位ヲ繼キ日耳曼ヲ分テ
 數州ト為シ且ツ樞密院及ヒ親裁法院ヲ設ケ以

テ永ク各州ノ和親ヲ保持シ國力強盛ヲ致スノ
基ヲ立ツ

(八) マキシミアンノ孫チャールレス第五世西願
班牙ノチャールレ 英明ニシテ勢威大ニ振フ宇ヲ
御スル幾ント四十年其間多クハ戦闘ニ從事ス
殊ニ佛王フランシス第一世ト戦ヒ大ニ墮地里
王統ノ權勢ヲ張ルチャールレス自ラ好テ西班牙
ノ王位ヲ其子ヒリツプ第二世ニ傳ヘ千五百五
十六年日耳曼ノ帝祚ヲ其弟フエルダナンドニ
譲リ退テ西班牙ノシント、シヨスト寺ニ入り閑

散以テ身ヲ敬神ノ一途ニ委子復タ政務塵事ヲ
顧ミスチャールレス在位ノ間銳意以テ改教ノ風
潮ヲ拒クト雖氏國中大ニ其歩ヲ進ムルニ至レ
リ

(九) フエルダナンド第二世及ヒフエルダナン
ド第三世ノ位ニ在ルヤ所謂ル三〇年ノ戰アリ
端ヲ千六百十八年ニ發キ千六百四十八年ウエ
ストハリアノ和議ヲ以テ其局ヲ結フ之ヲ要ス
ルニ第十六世紀ニ當リ新舊兩徒ノ争ニ起因ス
ルモノ多シ而シテ新教ノ同盟ヲ傳道會同ト名

ケ舊教ノ合同ヲ舊教^{カトリック、プロテスタント}聯盟ト曰フ終ニ兩教共ニ均シク之ヲ置クニ至テ事乃チ平ク

(十) チヤールレス第六世ノ殂スルヤハブスベルク統ノ男系竟ニ絶ヘ正統ヲ以テ其位ヲ争フモノ二人アリ戰亂隨テ至ル之ヲ名ケテ奧國繼紹ノ亂ト曰フ千七百四十八年アキスラチヤールノ講和ヲ以テマリヌセルサヲ立テ其夫フランシス、オス、ロルランニ授クルニ帝權ヲ以テス

(十一) 是ヨリ二年前フランシス第二世奧國世襲ノ皇帝タリ千八百六年肅然日耳曼皇帝ノ位ヲ

退ク是ニ於テ日耳曼帝國竟ニ斷絶ス往古チヤールマンノ歐西帝國ノ基ヲ関テヨリ茲ニ一千六年ナリ

(十二) 帝王ノ政ヲ執ルヤカルロビンダアン統ノ世ヲ治ムルニ當テ世襲ナリシト雖^レ後チ推撰ヲ以テ其位ヲ繼クニ至レリ而シテ推立ノ法時ニ隨テ差アリ初メニハ國民舉テ之ヲ推立シ中ヨロ貴族高官ノ推ス所ト為ス終ニ尚書大元師帝室理事厨掌及ヒ宮宰ノ五官之ヲ撰定ス當初コノ五官ノ撰定權ハ僅ニ候補ヲ指定シテ之ヲ

撰^{エレクト}帝候ニ示スニ過キスト雖氏後ヲ遂ニ推撰ノ
全權ヲ占有スルニ至レリ是ヨリ先キ撰權ノ完
カラサルヲ以テ不滿ヲ懷クモノ少シトセス終
ニチャールレス第四世ノ宇ヲ御スルニ及テ彼ノ
有名ナル憲法ヲ定メ之ヲ名ケテ金諭^{コンスチテューション}ト曰フ即
チ僧官ニハメンズ及ヒトレーブスノ三總牧俗
官ニハボヘミア王伯爵パラチン公爵サキソニ
一及ヒ候爵ブランテンボルクノ四大紳ヲシテ
帝王推撰ノ權ヲ專有セシムルナリ後世マタバ
バリア及ヒブリンスウツキル子ンボルグノ二

公コノ列ニ入ル

(三) 千八百四十八年大ニ國會ヲ興シ國中ノ代
議士五百名ヲメイン河畔ノフランクフホルト
ニ會シ以テ國憲ヲ制定シ日耳曼諸州ヲ聯合シ
テ之ヲ一政府ノ治下ニ置ント欲ス然レ氏遂ニ
其意ヲ達スル能ハスシテ止ム

奧地利史

(一) 奧地利ノ世襲帝國ト為リシハ實ニ千八百
四年ニシテ今ヤ歐洲ノ一大國タリ是ヨリ先キ

專治ノ勢カヲ保支スルノ道ニ於テ與テ大ニカ
アリ太子メツトルニツチ英明ニシテ能ク治法
ニ長ス其曾テ首相ノ職ニ在テ政務ヲ主裁スル
モノ四十餘年銳意以テ擅制ノ治權ヲ維持ス
(二) 千八百四十八年佛國ニ革命アリロイスヒ
リソプヲ廢ス餘殃ノ及フ所反亂忽チ維也納ニ
作り竟ニメツトルニツチヲ黜ク埃帝フエルデ
ナンド即テ逃レテ維也納ヲ脱ス後テ幾モナク
自ラ其位ヲ退キ其甥フランシスジヨセフヲ立
ツ

(三) 埃國屬地ノ伊太里北部ニアルモノ皆齊シ
ク叛シサルデア王チヤールスアルベルト之
ヲ援ク元師ラデスキー埃軍ヲ將テ大ニ戰ヒ遂
ニ之ヲ破ル

(四) ホンガリーハ埃地利帝國ノ大半ヲ占ムト
雖氏自ラ其憲法ヲ異ニセルモノ久シ後チ幾モ
ナク埃國之ヲ破ルノ故ヲ以テ終ニ叛シ千八百
四十九年獨立ヲ公告シ別ニ一政府ヲ立テコッ
シウスヲ以テ之カ主宰ト為ス

(五) 魯帝ニコラス埃地利ヲ援ケ大兵ヲ發シテ

ホンガリーヲ伐ツゴルゼーホンカリーノ中軍ニ將タリ奮勇力戦スト雖氏勢竟ニ窮マリ千八百四十九年八月ヲ以テ魯將プリンスパスキウツチニ降ル

(六) 千八百四十九年三月墺帝終ニ主旨寛裕ナル一大憲法ヲ發布シテ政事信教演説印行ノ自由ヲ鞏固ナラシメ兼テ二局立法院ヲ設ク然ルニ千八百五十一年ニ至リ上諭ヲ發シテ之ヲ廢シ再ヒ專治政體ヲ立ツ

西班牙史

(一) 西班牙ノ羅馬ニ属スル久シ降テ第五世紀ノ始ニ至リスウイビ族バンドルス族及ヒアラニス族相踵テ境ヲ侵ス是レ皆ナ數年前ビジゴス族即チ西部ゴス族ノ麾下ニ属スル者ナリ第八世紀ノ初年ムガムールス族即チサラセンス族ヲ率テ來リ攻ム七百十三年大ニエキセルスニ戰テ西軍ヲ破リゴス統ノ王ロデリック之ニ死ス

(二) ムールス族數年ヲ出テスシテ國中ヲ蹂躪

シ一時サラセンス族ノ教主督縣ヲ派遣シテ之ヲ治メシム七百五十五年オムミアードス統ノアブドルラマン別ニ一王國ヲ立テ自ラ稱シテコルドバノ教主ト唱ヘ其府ヲ以テ帝京ト為シ且ツ之ヲシテ華奢文物ノ淵藪タラシム子孫相承ケ其位ヲ有ツモノ幾ント三百年其國終ニ分裂シテ數邦ト為ル其大ナルモノ初ニハコルドバニシテ後ニハグラナダナリ

(三) 初メムーイルス族ノ西班牙ヲ侵佔スルヤゴス族ノ兵即チ今ノ所謂ル耶蘇教徒ノ軍アスタ

ユリアス河畔ニ退キペラジオヲ推シテ之カ主將ト為シ七百十八年ヲ以テ一王國ヲ開創シ漸ク其地ヲ復ス西班牙ノ史乘ニ於テ耶蘇教徒ノムールス族ト相闘フモノ數百年殊ニ第十一世紀ノ末ニ至リ西將ビバルノ伯爵ドニロガツゴデイアズ雄武ヲ以テ其名特ニ著ハルデイアズ是ヲ以テ英將ノ副號アリ

(四) 是ヨリ先キ耶蘇教徒ノ數國ニ分立スル者數世ノ久シキニ及フカスターレオンアルラゴンナバルレノ如キ其最タルモノナリ千四百

七十九年フエルゲナンド第二世アルラゴンノ
王位ヲ嗣ク是ヨリ先キフエルゲナンドカステ
ール及ヒレオンノ女王イサベルヲ娶ル茲ニ
至リ其國ヲ合ス是時ニ當テムールス族領ホ西
班牙ニ在リ僅ニグラナダヲ保有スト雖氏幾モ
ナク千四百九十二年ニ至リ竟ニ之ヲ喪フ後テ
ナバルレヲ裁定シ西班牙全國始メテ一君ノ治
下ニ属ス

(五) フエルゲナンド及ヒイサベルヲノ並立シ
テ世ヲ治ムルヤ武功顯赫西班牙史中事ノ記ス

可キモノ多シムールス族ヲ化外ニ逐ヒ國中ヲ
一統シテ一王國ト為シ千四百九十二年亞米利
加ヲ發見シテ西王ノ寶庫ヲ充實シ終ニ一大新
疆ヲ其地ニ開クニ至レリ

(六) チャーレス第一世原日耳曼ノチャーリ及ヒ
ヒリツプ第二世在位年久シク國勢大ニ振ヒ威
環宇ヲ壓ス歐亞二洲ニ跨リテ属地ヲ有スル甚
タ廣ク當時歐洲富強第一ノ國タリ然ルニ爾後
國力漸ク衰へ終ニ歐洲第一ノ地位ニ立ツニ至
レリ是國文學ノ隆興ヲ極メシハ塙國王統ノ君

主治ヲ施スノ時ニシテ即チ第十六世紀ヨリ第
十七世紀ノ間ニ在リ

(七) 千八百八年チヤールス第^五世ボナバルテ
ノ廢スル所ト為ルボナバルテ乃チ其弟ジヨセ
フ、ボナバルテヲシテ其位ヲ踐マシム是ヨリ慘
鬪數年延テ千八百十三年ニ及フ時ニチヤール
ス第^四世ノ子フエルダナンド第^七世終ニ其位
ニ復ス

(八) 千八百十一年ヨリ千八百二十一年ニ至ル
マテ十年ノ間南北亞米利加ノ新疆ニ於テ移民

僉ク西班牙ニ叛シ各自ラ其獨立ヲ公告ス是ヨ
リ内亂政變踵ヲ接シ國中竟ニ困弊ス

葡萄牙史

(一) 葡萄牙ハ古ノ所謂ルルシタニアノ大半ヲ
占メ上世ノ事跡ハ咸ク西班牙ノ史記ト相聯串
シ羅馬人スウエビ族ビジゴス族及ヒムールス
族相踵テ之ヲ侵略ス

(二) ムールス族耶蘇教徒ト戰フニ當リボルゴ
ンデーノ公爵ヘンリーカスチールノ王アルホ

シソノ麾下ニ属シ功ヲ立ツル少シトセズ千九
十四年アルホンソ之ヲ賞スルニ伯爵ヲ以テシ
且ツ葡萄牙國中未タムールス族ノ侵掠ヲ受ケ
サルノ地ヲ以テ之ニ與フヘンリーノ子アルホ
ンソ嗣テ立ケムールス族ヲオリクオウニ破リ
遂ニカスチールノ所轄ヲ離レ自ラ王號ヲ稱ス
是レ實ニ千百三十九年ナリ
(三) 千三百八十五年ジヨン第一世嗣テ立ツ在
位ノ間大ニカスチールノ軍ヲ破リ屢ムールス
族ヲ征ス太子ヘンリー水手ノ副号アリ銳意以

テ航海ノ術ヲ勸奨シ新地檢出ノ道ヲ開導ス而
シテ事ミナ史乘ニ著ハル是ヲ以テ敢為險行利
ヲ求ムルノ熟練ナル數世ノ久シキニ涉リテ葡
萄牙ノ右ニ出ル者ナシ

(四) ジヨン第二世及ヒエマニウルノ世ヲ治ム
ルヤ重大ノ發見アルヲ以テ名アリジヨンノ時
千四百八十九年バルソルミウダイアズ始メテ
喜望峰ニ航行シエマニウルノ時千四百九十七
年バスコガマ之ヲ周航シテ印度ニ至ル是ヨリ
歐洲ノ印度ニ通商スルモノ紅海埃及ノ舊路ヲ

徑ルナキニ至レリト雖氏其初メテ之ヲ檢出スルノ故ヲ以テ數年ノ間葡萄牙獨リ喜望峰ノ航權ヲ專有シ和蘭ノ商勢隆興スルニ至テ息ム

(五) 千三百八十五年ジヨン第一世ノ位ニ即テヨリ千五百八十年西王ヒリツプ第二世ノ葡萄牙ヲ征服スルニ至ルマテ王政隆興ヲ極ム其間名士英傑相踵テ新地ヲ檢出シ國土ヲ征略スルノミナラス俊才碩學輩出シテ書ヲ著ハス少シトセス詩人カメオンスノ如キ曾テルシアードヲ著ハシ名聲比ナシカメオンス千五百七十九

年ヲ以テ歿ス

(六) 千五百八十年葡萄牙王統ノ男系竟ニ絶ヘ患難相踵ク是時ニ當テ西王ヒリツプ第二世其位ヲ奪ヒ遂ニ之ヲ一統ス而シテ千六百四十年ニ至リ國人西軍ヲ逐ヒブラガンザノ公爵ジヨンヲ推シテ其位ニ登ラシムジヨン素ト朱定ノ嗣ニシテ正王殂シテ子ナキノ日始メテ其位ヲ紹クノ權アル者ナリ爾後其族統相承ケ今ニ至ル

(七) 喜望峰ノ發見アリテヨリ二年ヲ經ルノ後

チ葡人カブラルブラジルヲ檢出シ第十六世紀ノ中コロ人ヲ其地ニ移シ以テ新疆ヲ開ク迄世ニ至ルマテ葡王相繼テ之ヲ治メ是國屬地ノ要部タリ

(ハ) 千八百七年佛軍葡萄牙ヲ伐ツ是ニ於テ皇族ブラジルニ走り政府ヲ其地ニ立ツ千八百二十年ニ至リ太子パドロヲ留メテ攝政ト為シ咸クリスボンニ還ル千八百二十三年ブラジル獨立シテ別ニ一帝國ヲ立テパドロヲ推シテ帝ト為ス降テ千八百二十五年ニ至リ葡萄牙政府ヲ

ノ獨立ヲ認可ス千八百二十九年葡王ジョン第六世歿シテ嗣ナクブラジル帝パドロ正統ヲ以テ之ヲ紹クヲ得ヘシト雖其女マリアダグロリアアラシテ之カ女王ト為リマリア第二世ト稱セシム然ルニパドロノ弟マイゲウル其位ヲ窺ヒ交戦數年ニ及フ千八百三十二年マイゲウル終ニ化外ニ逐ハル

紐折爾蘭史

(一) 是國中古ニ在テハ數小州ニ分裂シ各伯爵

ノ治ムル所ト為ル第十五世紀ニ至リ國土大半公爵ボルゴンデーノ治下ニ屬シ製造貿易共ニ旺盛ニシテ四隣ミナ之ヲ仰ク而シテ其末年ニ及テマキシミリアン姻故ヲ以テ之ヲ奧國王統ノ治下ニ移ス

(二) 千五百五十五年チャールレス第五世之ヲ西王ヒリツプ第二世ニ讓ルヒリツプハチャールレスノ子ナリ千五百七十九年和蘭ノ七聯邦ヒリツプノ苛政ニ堪ヘス終ニ叛シテ別ニ國ヲ立テ自餘ノ諸州猶ホ西班牙ニ屬ス千七百十三年ユ

ートレットノ講和ヲ以テ再ヒ之ヲ奧國王統ノ所有ニ歸シ千七百九十四年ニ至リ佛軍マタ之ヲ略ス

(三) 和蘭七聯邦ノ獨立シテ西班牙ノ所轄ヲ離レ遂ニ自ラ之ヲ治ムルニ及テ幾モナク勵精工業ヲ起シ險行利ヲ求メ國勢漸ク隆興ス是ニ於テ航海ノ權終ニ環宇ヲ壓シ東印度及亞米利加洲中ノ西班牙屬地ヲ奪ヒ更ニ四方ニ交通シテ大ニ貿易ヲ行フ

(四) 千八百十五年維也納ノ公會ニ於テ七邦即

チ和蘭及ヒ南部十州即チベルデアン諸洲ヲ聯
 合シテ一王國ト為シ之ヲ紐折爾蘭ト名ケオラ
 ンデ候ノ治下ニ属ス其存立綿々十五年ニ及フ
 (五) 千八百三十年佛國ニ革命アリチャーレス
 第十世ヲ逐フ是ニ於テベルデアン叛シテ別ニ
 自ラ一國ヲ立テ之ヲ名ケテベルゲウムト曰フ
 英國ノ皇女故カルロツトノ夫サクスコブルグ
 ノ太子レオポルドヲ推シテ王ト為ス

波蘭史

(一) 波蘭ノ國主ミセスロース第十世紀ニ至リ
 耶蘇教ヲ傳フ而シテ其國隆盛ヲ極メシハ第十
 五世紀ヨリ第十六世紀ニ至ルノ間ニシテ當時
 歐洲強國ノ一ニ居レリ

(二) カシミル第三世偉王ノ副號アリ第十四世
 紀ニ至リ大學ヲグラコウニ設ケ大ニ學術及ヒ
 工商ノ道ヲ勸奨シ成文律ヲ制定シテ之ヲ國中
 ニ行フ而シテ第十四世紀ノ末ニ及テリスアニ
 アノ公爵シヤゼルロン原ラダスロウ波蘭ノ女
 王ヘドワイガヲ娶リ二國終ニ合一ス

(三) 千五百七年シギスモンド第一世立ツ在位ノ間版圖大ニ加ハリ國勢昌榮ヲ極ム後チ漸ク其衰フルニ及テジヨンソビエスキノ力ニヨリ一時之ヲ保支スルヲ得タリト雖モソビエスキ以後是國復タ英主ヲ出サス

(四) 魯墾普ノ三帝相踵テ波蘭ヲ征服シ各其地三分シテ之ヲ治ム即チ魯帝ハ千七百七十二年ニ之ヲ略シ墾帝ハ千七百九十三年ニ之ヲ取リ普帝ハ千七百九十五年ニ之ヲ奪フ時ニスタニスロウス竟ニ廢セラレ國亡フ暴虐窮ナキヲ以

テナリ

(五) 千八百七年チルシットノ和議アリテヨリ波蘭大半普國ノ所轄ニ属スト雖モ終ニ之ヲ一君主國ト為シワルサウノ公國ト名ク千八百十五年其一部ヲ普國ニ交付シ之ヲ名ケテポーランドノ公國ト曰フ其餘ハ更ニ以テ波蘭王國ヲ立テ政體ハ立憲君政ニシテ魯帝知藩ヲ派遣シテ之ヲ管治セシム

(六) 魯帝ノ弟大公爵コンスタンチン波蘭ノ知藩ニ任シ施治殘虐ヲ極ム千八百三十年國人亂

ヲ作シ之ニ抗ス激戰數次ニシテ竟ニ全ク敗レ
國ヲ舉テ魯細亞帝國ノ版圖ニ入ル

(七) 魯帝ニコラス波人ヲ待ツ刻薄至ラサルナ
シワルサウ及ヒウイルナノ大學ヨリ許多ノ小
學ニ至ルマテ盡ク之ヲ廢シ公立書庫及ヒ博物
館ノ如キ皆ナ之ヲ聖彼得堡ニ移スニ至レリ

瑞典史

(一) 瑞典ハ諾威ト共ニ往古スカンヂナヴィアノ
國ヲ成シ久シクゴス族及ヒバングルス族ノ據

ル所ト為ル千三百八十八年是國終ニ丁抹ノ女
王マーガレットトノ治下ニ屬ス時人之ヲ名ケテ
北方ノセミラミスト曰フ千三百九十七年丁瑞
諾ノ三國ヲ一統シテ之ヲカルマルノ聯邦トス
マーガレット殂スルノ後テ其嗣暗愚ニシテ聯
邦竟ニ壞解シ瑞典國中戰亂相踵クモノ數年ノ
久シキニ及フ

(二) 丁王クリスチアン第二世瑞人ヲ虐スル酷
シ時人之ヲ北方ノ子ロト名ク第十六世紀ノ初
ニ當リガスタブスバサ其厄ヲ救ヒ千五百二十

三年遂ニ王位ニ登ル銳意民福ヲ圖リ且ツ新教ヲ入ルバサハ是國古帝王ノ末裔ニシテ聰明ヲ以テ聞ユ

(三) ガスタブスアドルフス立ツアドルフス偉王ノ副號アリ在位ノ間政績特ニ著ハレ瑞典史中自ラ一大紀年ヲ成ス政事家タリ國王タリ又タ將帥タルニ於テ皆ナ俊秀絶倫ニシテ近世ノノ右ニ出ツ者ナシ彼ノ三十年ノ役アルニ當リ新教ノ徒ヲ督シテ大ニ功アリ連戰咸ク敵ヲ破リ千六百三十二年ルツゼンニ戰テ之ニ死ス

(四) チャーレス第十二世立ツチャーレス性深ク榮光ヲ好ミ心意太々迷フ人或ハ之ヲ北方ノアレキサンドルト名ケ或ハ之ヲ北方ノ狂人ト曰フ丁抹波蘭及ヒ魯細亞ノ兵ト戰ヒ大ニ之ヲ破ル千七百九年バートル偉帝トポルタバニ戰ヒ、竟ニ敗ル是ヨリ魯國漸ク興リ年ヲ逐フテ其地ヲ蠶食ス

(五) 千八百八年魯國フハインラムドヲ略スガスタブス第四世已ニ其地ヲ喪ヒ且ツ狂愚ニシテ往々治術ヲ錯リ國殆ント危カラントス千八

百九年竟ニ廢セラルボナバルテノ將帥ベルナ
ドツト撰ハレテ國主ト為ル千八百十四年諾威
ヲ略シ以テフハイランダノ喪失ヲ償フ

(六) 千八百十七年チャールズ第十三世殂スベ
ルナトツド乃テ其位ヲ繼キチャールズ第十四
世ト稱ス在位二十六年昇平事ナク國勢隆興ス
千八百四十四年其子オスカル嗣テ立ツ

丁抹史

(一) 千四百四十八年ホルステイン即チオルデ

ンボルグ統ハクリスチアン第一世丁抹ノ王位
ヲ繼ク是國元ト推撰ヲ以テ君ヲ立テ大權ミナ
貴族ノ掌中ニ歸ス降テ千六百六十年ニ至リ政
體一變シテ世襲專制ト為ル是レ一ハ瑞典ト戰
フテ利アラサルノ致ス所ニシテ一ハ爵政ノ苛
虐窮ナキニ因ルナリ

(二) 第十八世紀ノ初ニ當リ丁王フレデリツキ
第四世位ニ在リ瑞王チャールズ第十二世ト戰
テ利アララス千七百二十年ヲ以テ兵ヲ息ム是ヨ
リ千八百一年ニ至ルマテ國中幾ント平安ニ属

ス

(三) クリスチアン第五世及ヒフレデリツキ第五世ノ位ニ在ルヤ千七百三十年ヨリ千七百六十六年ニ至ル其間國內昇平ニシテ漸ク昌盛ヲ致スフレデリツキノ時伯爵ベルンストツフ之ヲ輔佐シ政績特ニ著ハル其甥マタ名ヲ同フスクリステアン第七世ノ時ニ至リ顯要ニ立テ大ニ功アリ

(四) 千七百六十六年クリステアン第七世英王ジョージ第三世ノ妹カロリンマチルダヲ娶ル

クリステアン性懦弱ニシテ行放佚ナリ而シテマチルダモ亦タ失行アリ私ニ國王ノ寵臣ストルンシーニ通スストルンシー刑セラレマチルダ獄ニ下ル後テマチルダ釋サレテ餘生ヲハノールブルノゼールニ送ル

(五) 千八百一年爵紳子ルリン英國ノ水師ヲ將テコツパンハーゲンヲ襲撃ス千八百七年是國昇平ナルニ當テ爵紳カスルト及ヒ水師提督ガンビル卒然京城ヲ攻撃ス蓋シ丁抹竊ニ佛國ニ黨スルノ意アルヲ傳聞スト稱シ名ヲ茲ニ

托スルナリ丁抹ノ舟師大艦十八艘小艦十五艘
ヨリ成ル盡ク英軍ニ降ル時人英國ノ非舉ヲ罵
ル大聲憚ルナシ

(六) 千八百四十八年一月フレデリツキ第七世
丁抹ノ王位ヲ嗣クスレスウツキ及ヒホルステ
インノ二公國忽チ叛ス慘闘数年亂終ニ平キ再
ヒ其治下ニ属ス

普魯士史

(一) 是國強大ヲ致ス所以ノモノハフレデリツ

キウイルレムノ創業ニ係ルウイルレム大撰帝
候ノ副號アリ千六百四十年嗣テ立テ政ヲ執ル
在位年久シク國勢隆興ス千七百一年嗣子フレ
デリツキ立テ王ト為ルフレデリツキ性懦弱ニ
シテ且ツ自大ナリ

(二) フレデリツキ第二世偉帝ノ副號アリ千七
百四十年位ニ登ル是ヨリ先キ父王ノ之ヲ待ツ
酷々刻薄ナリ而シテフレデリツキ深ク征略武
名ヲ欲ス即チ父王遺ス所ノ精兵ヲ督シテシレ
シアヲ伐チ遂ニ之ヲ略ス

(三) 千七百五十六年フレデリツキ日耳曼ノ女帝マリアセラサト兵ヲ構フ佛魯二國セラサヲ援ク此役ヤ兩軍奮闘シテ骨山血河ノ慘狀ヲ極メ千七百六十三年和ヲホベルツボルグニ講シ役畢ル戰鬪七年屍ヲ戰場ニ晒スモノ五十餘萬而シテ百事終ニ咸ク舊態ニ復ス之ヲ要スルニ其結局タル普帝フレデリツキヲシテ民苦ヲ顧ミス機ニ乘シテ遂ニ其非望ヲ達シ以テ雄武ノ名ヲ耶蘇教國ニ揚ルヲ得セシメタルノミ

(四) 是ヨリフレデリツキ專ラ意ヲ國內土工ノ

改良ニ注キ威ニ都城ヲ修築シ大ニ農工商ノ事業ヲ勸奨ス且ツ特ニカヲ波蘭ノ第一區畫ニ用フ實ニ近世無比ノ雄將タルノミナラス其ノ勵精倦マサルノ氣力ニ至テハ前古列王ノ遠ク及ハサル所ナリフレデリツキ深ク文事ヲ好ミ學識博達マタ著書ヲ以テ名アリ但タ惜ラクハ性暴虐ニシテ絶ヘテ仁義ヲ顧ミサルノ失アルノミ

(五) 佛國革命ノ後テ歐洲ノ亂アリ千八百六年フレデリツキウイルレム第三世ボナバルテト

ジエナニ戦ヒ大ニ敗ル千八百七年チルシツト
ノ和約ヲ以テ幾ント其地ノ半ヲ喪フ千八百十
三年聯盟諸國ト兵ヲ合セ以テ佛國ヲ伐ツブル
ツチエル普軍ヲ督シテウオトルローニ戦ヒボ
ナバルテヲ破ルニ當テ與テ大ニ力アリ千八百
十五年維也納ニ盟ヒ地ヲ得ル少シトセス是ヨ
リ國勢大ニ興リ百事面目ヲ改ム教育ノ事ノ如
キ特ニ然リトス方今歐洲ニ於テ教育ノ隆盛ナ
ル其右ニ出ル者ナシ

(六) 千八百四十年フレデリツキウイルレム第

三世ノ子フレデリツキウイルレム第四世嗣テ
立ツ其位ニ在ルヤ政變内証踵テ至ル殊ニ千八
百四十八年及ヒ千八百四十九年ヲ以テ甚シト
ス國人切ニ政體ノ寛裕ナランヲ需ムル再三
嘗ナラズ千八百四十八年更ニ新憲ヲ公布シ以
テ政事信教及ヒ印行ノ自由ヲ鞏固ナラシメ咸
ク縉紳ノ特例ヲ廢シニ局立法院ヲ設ク

魯西亞史

(一) 魯西亞ノ隆興シテ歐洲ノ一大強國ト為リ

シハ其起原甚々遠カラス其基ヲ開キシハ實ニ
パートル偉帝ナリパートル才略絶倫前古比ナ
シ在位千六百九十六年ヨリ千七百二十五年ニ
至ルパートル曾テ同盟諸國ト兵ヲ合セ瑞王チ
ヤーレス第十二世ヲ伐チ軍敗ル後チ千七百九
年大ニポルタバニ戰テ之ニ勝チ地ヲ略シ境ヲ
擴ム

(二) 千七百六十二年カセリン第二世其夫パー
トル第三世ヲ廢シテ終ニ之ヲ殺シ以テ其位ヲ
篡フ在位年久シク國勢大ニ振フカスリンノ政

ヲ施スヤ才略絶倫パートル偉帝ノ遺業ヲ承ケ
百事大ニ其面目ヲ改ム大臣將帥ミナ俊秀ニシ
テスワルロウポテンキンノ如キ其名特ニ著ハ
ル且ツポーランドノ一部并ニクリミア等ヲ略
シテ版圖ヲ加フカセリン大志アリ固ヨリ飽ク
ヲ知ラス陽ニ善良ヲ表シテ其心公義ヲ顧ミス
外事已ニ然リ内行ノ放佚言フ可カラサルモノ
アリ

(三) 千七百九十六年カセリンノ子ポール嗣テ
立ツ在位久シカラス擾亂相踵ク千八百一年竟

ニ弒セラル其子アレキサンドル位ヲ紹ク在位ノ間國勢隆興四隣ヲ壓シ版圖愈加ハル大ニ政事ヲ改良シ國人悦服ス千八百十二年ボナバルテ魯西亞ヲ伐チ國中ヲ蹂躪ス而シテ先ツ其連戰連勝ノ銳鋒ヲ挫キシハ實ニ魯兵ノ力ナリ

(四) アレキサンドルノ弟ニコラス其位ヲ紹ク在位ノ間土耳其波斯西爾加細亞波蘭及ヒ匈加利ト兵ヲ構ヘ其事特ニ著ハル而シテ土耳其ト戰端ヲ開キシハ千八百二十八年四月ニシテ魯軍進テ土境ニ入り幾モナクブライロウバルナ

等ノ要地ヲ略ス千八百二十九年ノ役伯爵デイエビツチ魯軍ヲ督シシリストリア及ヒ其他ノ地方ヲ略シバルカン山ヲ經過シテアドリアノツプルノ府城ヲ拔キ土兵ヲシテ終ニ和ヲ請ハシメ千八百二十九年九月アドリアノツプルニ盟ヒ署名捺印セシム

(五) 波蘭ノ人民其知藩大公爵コンスタンチンノ虐制ヲ受ケ千八百三十年終ニ叛ス千八百三十一年ワルサウ陥リ亂乃チ平ク波人逐ハレテ西伯利ニ之クモノ數千人波蘭竟ニ魯國ニ隸屬

ス
(六) 千八百四十八年魯帝大軍ヲ發シテ埃帝ヲ
援ケ匈加利ノ亂民ヲ夷ク方今魯西亞ノ政略ハ
武斷壓制ナリ常ニ八十萬ノ兵ヲ備フ何ノ日カ
自由政體ノ立ツヲ望マン

羅馬史

(一) 羅馬教王ステヘン二世ノ始メテ政權ヲ
掌握セシハ七百五十年ナリ降テ第十一世紀ニ
至リグレゴリー第七世原ヘルドブノ位ニ在ル

ニ當テ威權極ナク能ク帝王ヲ駕御ス

(二) 第十六世紀ノ上半ハ教王施治ノ史乘ニ於
テ一大紀年ヲ成ス羅馬教王ゼリウス二世首
トシテカムブライノ同盟ヲ起ス武功顯赫政績
見ル可キモノ多シ彼ノ有名ナルロレンヅドメ
ダシノ子レオ第十世嗣テ立テ渥ク文事ヲ勸獎
ス位ニ在ルノ日千五百十七年改教ノ事アリル
一ザルノ首唱スル所ナリ是ヨリ羅馬教王ノ威
權大ニ衰フ

(三) 千八百九年ボナバルテ教王治下ノ國土ヲ

奪ヒ之ヲ佛國ノ附庸ト為シ教王ノ治權一時地ニ墜ツ後チ維也納ノ公會ニ於テ略ボ其地ヲ復ス

(四) 歐洲列國ノ中政治ノ專制ナル羅馬ヨリ大ナルハナシ然リ而シテ猶且ツ久シキヲ維持スルヲ得タリ千八百四十六年ピオウス第九世撰ハレテ教王ノ位ニ登リ大ニ政務ヲ改良シ施治寛裕ヲ主トス一時國人大ニ服ス

(五) 然ルニ佛國ニ革命アリ千八百四十八年歐洲諸國マタ政變アリ國人忽チ之ニ感奮シ施政

ノ寛裕ヲ教王ニ促ス愈甚シ終ニ之ヲ廢シテ共治政體ヲ立ツ教王ピオウス變粧シテ奴僕ト為リ子一プルス國ノゲータニ走ル

(六) 佛國政府兵ヲ遣テ羅馬府ヲ砲撃シ千八百四十九年七月三日ヲ以テ遂ニ之ヲ拔ク乃チ共治政體ヲ覆シ教王ヲ迎ヘテ之ヲ其位ニ復ス

土耳其史

(一) トルクス族ハ韃靼種ノ國民ニシテ元ト亞細亞ニ出ツ其始メテ史乘ニ現出セシハ大約八

百年前後ニ在リ曾テ敵ト戦フテ軍敗レ途ニア
ルメニアノ一部ヲ略シ之ヲトルコマニアト名
ク自ラ其名ニ取ルナリ然レ其何ノ時代ニ在
テ何人ト戈ヲ交ヘタルカラ詳ニセス一時之ヲ
數小洲ニ分畫シオスマンノ治下ニ属スオスマ
ン一ニオットマント名ク土耳其皇帝ノ稱號ヲ
冠シ千二百九十八年政府ヲビザニアノブルサ
ニ開ク

(二) 千三百六十年土帝アマラス第一世トレ
スノ大半ヲ略シアドリアノツプルヲ以テ國都

ト為ス其嗣バジヤゼット東帝國即テ希臘帝國
ノ過半ヲ征服シ千四百五十三年マホメット第
二世公斯担丁堡ヲ取ル是ヨリ其地永ク帝京ト
為ル

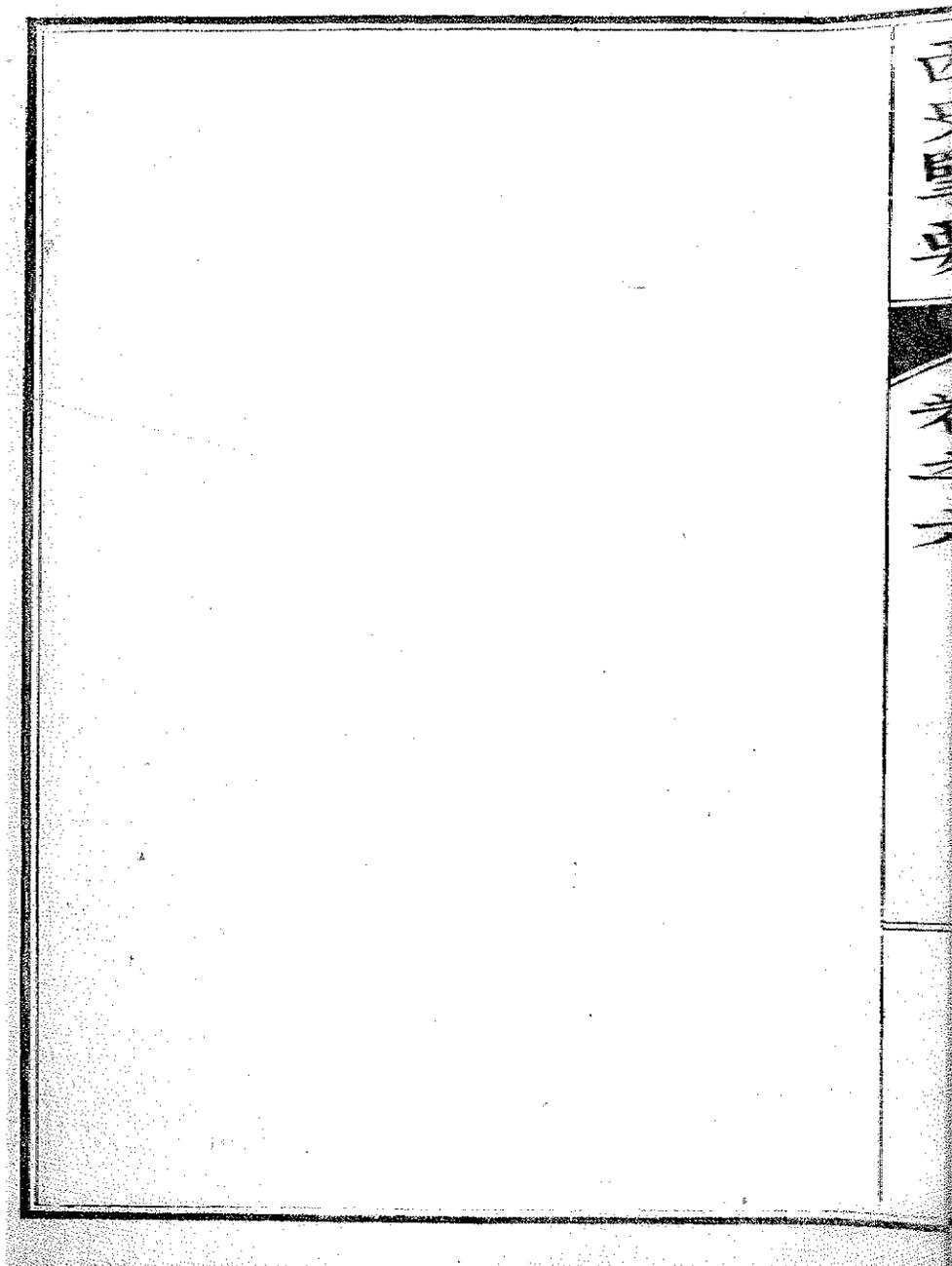
(三) 後テ土人漸ク其境ヲ歐羅巴亞細亞及ヒ亞
弗利加ノ三洲ニ擴メ往古有名ノ國土ヲ奪フ少
シトセスセリム第一世ノ位ニ在ルヤ西里亞及
ヒ埃及ヲ略ス千五百二十年ソリマン^{アラビヤ}華王位ニ
登ル功業顯赫前古歴帝ノ遠クハヒサル所ナリ
ソリマンシントジョン派ノ武紳ヲ逐フテロー

デス、馬ヲ奪ヒ、維也納ヲ圍ミ、ホンガリー王ヲシテ土國ニ藩屬セシメ、バグダツドヲ陥リアツシリア、メソポタニア及ヒトニスヲ征服シ、且ツ良典ヲ制定シテ之ヲ國中ニ布ク

(四) ソリマン以後土人慘闘ヲ行フ一ニシテ足ラス、魯埃二國ト戦ヒ又タコリ、カン帥ユル所ノ波軍ト兵ヲ交ユルカ如キ殊ニ然リ

(五) 輓近希人叛シ之ニ加フルニ、魯國ト兵ヲ構ヘテ戦利アラス是ニ於テ國力大ニ衰フ千八百二十九年和ヲアドリアノツプルニ講シ役息ム

(六) 千八百二十二年希人叛ス奮闘数年勝敗決セヌ後テ歐洲諸國事ニ干與シテ希人ヲ援ク千八百二十七年英佛魯ノ艦隊連衡シテ土耳其ノ水軍ヲナバリノニ破リ幾ント之ヲ殄ス千八百二十八年モレア及ヒ希臘諸島ノ一部土耳其ノ羈絆ヲ脱シ別ニ獨立シテ一國ヲ成シ伯爵カツプド、イストリアヲ推シテ大統領ト為スババリア王ノ子オソ立テ希臘王國ノ位ヲ踐ム



歐洲列國帝王略譜

第十五世紀起
端以後ニ係ル

| 紀元後 | 日耳曼 | 西班牙 | 瑞典 | 普魯士 | 魯西亞 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一四〇〇 | 歴帝 | 列王 | 列王 | 撰帝君主 | 歴帝 |
| 第十五世紀 | 九三 マキシミリアン 第七世 フエルナンド及ヒノサバル | 四 エリク及ヒヨトナ 一六 チャールス 第一世 五六 ヒリツブ 第二世 九八 ヒリツブ 第三世 | 二 ガスタフス ハサ 六〇 エリク 第十四世 六八 ジョーン 第三世 九二 シジモンド | 三五 ジョーナム 第二世 七二 ジョーン ジョーヂ 九八 ジョーナム フレデリック | 三八 ジョーン パツシル 八四 セオドル |
| 一五〇〇 | 一九 チャールス 第五世 五八 フェルナンド 第一世 六四 マキシミアン 第二世 七三 ロドルフ | 二 マツチアス 一九 フェルナンド 第二世 三七 フェルナンド 第三世 五八 レオホルド | 一 ガスタフス アドルフス 三二 クリスチナ 五四 チャールス 第十世 六〇 チャールス 第十一世 九七 チャールス 第十三世 | 一 フレデリック 第一世 二 フレデリック ウィルヘルム 第一世 四〇 フレデリック 第二世 八六 フレデリック ウィルヘルム 第二世 九七 フレデリック ウィルヘルム 第三世 | 五七 セオドル 六二 アレキシス 七六 セオドル 八二 ジョーン 九六 パートル 第一世 |
| 一七〇〇 | 五 ジョセフ 第一世 一一 チャールス 第六世 四二 チャールス 第七世 四五 フランシス 第一世 六五 ジョセフ 第二世 九〇 レオポルト 第二世 九二 フランシス 第二世 | 二四 ロイス 四六 フェルナンド 第六世 五九 チャールス 第三世 七八 ガスタフス 第三世 九二 ガスタフス 第四世 | 一八 オットオ エレオラ 四一 フレデリック 五一 エドワード デリック 七一 ガスタフス 第三世 九二 ガスタフス 第四世 | 一 フレデリック 第一世 二 フレデリック ウィルヘルム 第一世 四〇 フレデリック 第二世 八六 フレデリック ウィルヘルム 第二世 九七 フレデリック ウィルヘルム 第三世 | 二五 カセリン 二七 パートル 第二世 三〇 アン 四〇 ジョーン 四一 エリザベツス 六二 パートル 第三世 六二 カセリン 第二世 九六 ホール |
| 一八〇〇 | 填地 利 六 フランシス 三五 フェルナンド 四八 フランシス ジョセフ | 八 フェルナンド 第七世 三〇 イザベラ 第二世 | 九 チャールス 第十三世 一八 チャールス 第十四世 世(バルネドット) | 四〇 フレデリック ウィルヘルム 第四世 | 一 アレキサンドル 二五 ニコラ |
| 第十九世紀 | | | | | |
| 第二十世紀 | | | | | |

歐洲列國帝王略譜解說

日耳曼 八百年代ニ當リ是國チヤールマンノ
治下ニ屬シ歐西帝國ノ一部ヲ成ス八百八十七
年帝權ヲ日耳曼ニ移シ連綿帝國ト為ル降テ千
八百六年ニ至リ竟ニ其聯盟ヲ解ク是ヨリ先キ
千八百四年日帝フランシス第二世墾地利皇帝
ト稱シ子孫相承ケ累世其名ヲ冠ス

西班牙 フエルダナンド第二世曾テカスチー
ル及ヒレオンノ女王イサバルヲ娶リ千四百
七十九年ヲ以テアルロガンノ王位ヲ紹ク茲ニ

至リ西班牙終ニ合シラ一君主國ト為ル

瑞典

ガスタブスバサハ是國上世ノ王統ニ出

ツ曾テ革命アリ後チ遂ニ王ト為ル千八百十八

年佛國ノ元帥バルナドット位ニ登リテヤール

ス第十四世ト稱ス

普魯士

普魯士ノ撰帝候國ト為リシハ千四百十

五年ニシテ其ノ王國ト為リシハ千七百一年ナリ

魯西亞

往古是國ノ君主ヲ稱シテ魯帝ト曰フ

今ニ至リ往々此名ヲ用フペートル偉帝千六百

九十六年ヲ以テ其位ヲ紹キ帝號ヲ冒ス

歐洲列國文學略表

| | 紀元後 | 伊太里 | 佛蘭西 | 西班牙及葡萄牙 | 日耳曼和蘭等 |
|------|-------|--------|---------------------|------------------|-------------------------------------------|
| 一三〇〇 | 紀元後 | 伊太里 | 佛蘭西 | 西班牙及葡萄牙 | 日耳曼和蘭等 |
| 一四〇〇 | 第十四世紀 | ボツカツシオ | ダブリウドラナ クフリウオツカム | ミロバイラ ジヤンマニウル | シヨンボツス グツケンバルク トマストケンブス レデオモシタナス |
| 一五〇〇 | 第十五世紀 | ボツカツシオ | ミロバイラ | ミロバイラ | シヨンボツス |
| 一六〇〇 | 第十六世紀 | ボツカツシオ | ミロバイラ | ミロバイラ | シヨンボツス |
| 一七〇〇 | 第十七世紀 | ボツカツシオ | ミロバイラ | ミロバイラ | シヨンボツス |
| 一八〇〇 | 第十八世紀 | ボツカツシオ | ミロバイラ | ミロバイラ | シヨンボツス |
| 一九〇〇 | 第十九世紀 | ボツカツシオ | ミロバイラ | ミロバイラ | シヨンボツス |

* 符ハ詩人十符ハ画工△符ハ史家變體ヲ以テ特筆セル者ハ牧師ナリ

歐洲列國文學略表解說

伊太里 近世文學ノ復興セシハ伊太里ヲ以テ
最トス實ニ率先ノ榮アルモノナリ第十四世紀
ニ至リダント及ヒマトラナハ詩才ヲ以テ鳴
リボツカツシオマタ散文ヲ善クスルヲ以テ聞
ユ第十五及ヒ第十六ノ二世紀間ニ於テ文學美
術ニ長シテ赫然其名ヲ博セシモノ多シメ
及ヒエストノ二統富有ニシテ渥ク之ヲ庇祐ス
ルニ因ルナリ詩人ニハアリオスト及ヒタット

アリ名工ニハラパールダビンシミツチエル
ンゼロ等アリ史家ニハマツシアベルグイツシ
アルヂン等ノ碩學アリ而シテ星學士中ノ大斗
タル者ハガリレオナリ

佛蘭西 佛國ニ於テ文學ノ始メテ隆興セシハ
第十六世紀ノ首期ニシテフランシス第一世ノ
庇獎スル所ニ係ルカルビンスカリゼルステハ
ンストラムスモンタイン等ノ如キ其名特ニ著ハ
ル

佛國文學ノ旺盛ヲ極メシハロイス第十四世久

シク位ニ在ルノ時ニシテ即チ第十七世紀ノ下
半ヨリ第十八世紀ノ起端ニ至ル其間是國多ク
碩學名工ヲ出ス他邦ノ及ハサル所ナリ就中パ
スカルハ學才俊秀ナルヲ其名一世ヲ壓シモリ
ールコル子ールラツシン及ヒボイロウノ如キ
ハ詩作ニ長シフエ子ロンハ(テルマチユス)ヲ著
ハシボツリウボルドロウ及ヒマツシルロンハ
講經能辯ノ士ナリ

ボイロウ以後佛國絶倫ノ詩人ハボルタイルナ
リ又タ數學及ヒ星學ヲ以テ名アル者ハデスカ

ルテスガツセンゲド、アレインベルトコンドルセ
ツトスグラシヂ及ヒスプレースニシテ博物學
ヲ以テ聞ユル者ハブツフオン及ヒクビールナ
リ
西班牙・第十六世紀以前ニ在テ是國詩書ノ特
ニ較著ナルモノハ英傑シツドノ小説ニシテ詩
流ノ最モ古派ニ屬スル者ハガルシラリ及ヒボ
スカンナリラツプド、ベガ及ヒカルデロンハ戲
詩ニ長シドニクオキソートノ著者セルバント
スハ國中無比ノ文學士ニシテマリアナヘルラ

及ヒソリスハ前古絶倫ノ史家ナリ又タカモン
スハルシアードヲ著ハシ葡萄牙第一ノ詩人ナ
リ

日耳曼 改教ノ事アリテ以來碩學鴻儒陸續輩
出シ一時其數ノ多キ他邦ニ冠絶ス火藥活版時
辰鏢排氣器并ニ望遠鏡等有用ノ器具ヲ創製シ
タルカ如キ日耳曼ノ獨リ其聲譽ヲ專ラニスル
所ナリ日耳曼ノ國境ソールンノコーペルニシ
ウスハ環宇ノ眞法ヲ復興シルーサルハ改教ノ
首唱ヲ以テ名アリ又タ哲學理學ヲ以テ第一流

ノ位地ニ立ツ者ハケプレルレイブニーヅウオ
ルフ及ヒカントニシテ詩人ノ特ニ顯赫ナル者
ハクレस्पトツクスチルレル及ヒゴースナリ
瑞典 是國碩儒名士ノ一二ヲ列叙スレバリシ
ナウスハ植物學ニ長シスウエデンボルグハ理
學神學ヲ以テ聞ヘスチール及ヒベルゼリウス
ハ化學ニ精ナリ

和蘭 和蘭國中學士ノ輩出スル少シトセス就
中エラスムスハ當世ノ碩學ニシテ首トシテ力
ヲ學風ノ中興ニ盡ス者ナリグロチユースボツ
シウス及ヒレクレルクノ如キ亦タ絶倫ノ鴻儒
ナリホイゼンスハ數學ノ大家ニシテポールハ
ーグハ有名ノ醫士ナリ

亞米利加史

檢出并ニ移民記事

メリゴス カボット等 墨西哥及ヒ
白露ノ征略 コルテズ ピガルロウ
等 即チ紀元後千四百九十二年ヨリ

千六百年ニ至ル

(一) 亞米利加ノ發見ハ人生ノ一大功業ニシテ其成蹟ヲ論スレハ近世ノ一大事跡ナリ人ヲシテ奮起セシムルノ前古未タ其比ヲ見サル所ニシテ新ニ富源ヲ開キ隨テ商品ヲ増殖シ許多ノ新物ヲ傳播シ以テ大ニ貿易ヲ獎勵スルニ至ル且ツ此大陸ノ鑛山ヲ檢出シテヨリ天下流通ノ金銀ヲ滋益スル其量測ル可カラズ人ヲシテ移住ノ心ヲ起サシメ千古矇昧異端ノ迷境ニ陥ル所ノ曠野ヲシテ終ニ開明正教ノ德化ヲ被ルニ

至ラシメタルモノ亦タ此發見ノ然ラシムル所ナリ

(二) 智勇兼子備ハリテ能ク此地ヲ發見シ以テ世ヲ益スルノ偉功ヲ立テタル者ハクリストヘーア、コロンブス其人ナリコロンブスゼノアニ生ル父ハ梳毛ヲ以テ業トス十四歳ニシテ水手ト為リ善ク幾何天文及ヒ地理ノ諸學ニ通曉シ地球ノ形狀ヲ論スル更ニ當時ノ世説ニ卓越シ且ツ航海ノ學ニ達ス性特ニ難ヲ冒シテ外ニ航スルヲ好ミ堅忍撓マズ計畫法アリ行為嚴肅ニ

シテ威風自ラ備ハリ能ク自ラ制シ又タ能ク人ヲ治ム

(三) コロンブス竊ニ以為ラク地球ノ權衡ヲ完全ナラシムルニハ必スヤ他ニ一大陸ノ存スルアラシク若シ歐洲ヲ發シテ西ニ航セハ果シテ其地ニ至ラント但タ之ヲ以テ印度ト連帶スルモノト為シタルハ抑モコロンブスノ謬見ナリ然リ而シテ固ク自ラ其說ノ誤ラサルヲ信シ冒險遠航ノ念勃然トシテ禁スル能ハス終ニ實驗以テ之ヲ証セント欲スルニ至レリ

(四) 是時ニ當テ人未タ喜望峰ノ航路アルヲ知ラス印度ノ商品ヲ歐洲ニ運輸スル必ス紅海ヲ經テ陸路アレキサンドリアニ至ラサルヲ得ス故ニ海路支那及ヒ東印度ニ至ラント欲シ尋究怠ラス之ヲ求ムル茲ニ年アリ即チコロンブスノ遠航以テ新地ヲ擧出セント欲シタルモ畢竟西進シテ更ニ近易ノ便路ヲ求メタルニ外ナラサルナリコロンブス到ル處王候及ヒ國民ニ説クニ東方無盡ノ富源アルヲ以テシ陰然之ヲ獎勵シテ其幫助ヲ仰ク

(五)

初メコロンブス幫助ヲ郷國ゼノアノ人民ニ需テヨリ次ニ葡萄牙ノ國民ニ次ニ西王フエルデンドニ次ニ其弟バルソルミウノ紹介ニヨリ英王ヘンリー第七世ニ百方之ヲ請フト雖氏遂ニ其望ヲ達スルヲ得サルノミナラズ人ミナ以テ狂妄空想ノ徒ト為スニ至ル是ニ於テコロンブス一時茫然タリト雖氏自ラ厲マシテ堅忍倦マス西班牙ニ在ル七年切ニ其扶助ヲ乞フ然レ氏皆成ク斥ケラレ終ニ人ノ輕慢スル所ト為ル然ルニ女王イサベルラノ其志ヲ憫ミ幸ニ光

顧ヲ賜ヒ小舟三艘ヲ艤裝シテ十二月間ノ糧食ヲ備ヘ水手九十人ヲ載セ以テ其用ニ供ス而シテ其費ス所僅ニ英貨四千磅ニ過キサリシト云フ且ツ之ニ任スルニ凡ソ其ノ尋穿スル所ノ海洋ヲ総管シ發見スル所ノ國土ヲ統治スルノ全權ヲ以テス

(六) コロンブス乃チ千四百九十二年八月三日

ヲ以テ纜ヲ西班牙ノパロース港ニ解キ直ニカナリ島ニ向フ島ニ至リ船ヲ修メ更ニ進テ渺茫萬里未航ノ洋ニ入ル固ヨリ一葉ノ海圖ヲ備

ヘテ針路ヲ指黙スルナシ

(七) コロンブス幾モナク畢生ノ才略ヲ用ユルノ機會ヲ得タリ即チカナリ一嶋ヲ距ル大約百五十餘里ニシテ羅針ノ方向漸ク變シ北辰以外ヲ指スニ至レリ是レ前古未タ曾テ有ラサルノ奇變ナリコロンブス竊ニ大ニ愕クコロンブス已ニ然リ舟子ノ驚惶何ソ甚シカラサルヲ得ン舟中舉テ將ニ叛カントスルニ至ル然レ氏コロングス泰然トシテ動カス未タ自ラ其理ヲ解セスト雖氏爛舌倦マス遂ニ之ヲ説服シ更ニ進航

スル三十日ニシテ猶ホ陸地ヲ見ス是ニ於テ水手再ヒ擾動ス其勢愈酷シコロンブス之ヲ勵マヌ懇到ナリト雖氏舟子且ツ聽カス因テ已ムヲ得ス其需ムル所ニ從ヒ堅ク約シテ曰ク進航三日ニシテ若シ陸地ヲ檢出スルナクハ即チ回航シテ歸途ニ就カント是レオビードノ説ク所ナリ

(八) 既ニシテ陸地アルノ兆証顯然タリ十月十一日ノ夜コロンブス船頭ニ立テ遙ニ燈光ヲ望ム明朝果シテ陸地ヲ見ルヲ得タリ其喜マタ想

フ可シ満船ノ水手齊聲神詩ヲ唱ヘ以テ天神ノ
恩ヲ謝シ深ク前日躁暴不順ノ舉ヲ為シタルヲ
悔ヒ竊ニ相告ケテ船長ノ雄偉ナルヲ歎稱スル
ニ至レリ

(九) 初メコロングスノ發見セシハバハマ群島
ノ一ナルサント、サルバードル島ナリ此島一ニ
猫島カウチウスノ名アリ後チキウバ及ヒハイチヲ檢出ス
ハイチハ即チシント、ドミンゴ島ナリコロング
ス之ヲ名ケテヒスパニオラト曰フ自ラ之ニ上
陸シテ水手若干人ヲ其地ニ留メ以テ新疆ヲ開

カシム平生ノ持論ニ從ヒ此諸島ヲ以テ印度ニ
連帶スルモノト為シ彼此相距ル遠カラサルヲ
信スルノミナラス西航シテ其地ニ達シタルノ
故ヲ以テ之ヲ西印度ト名ク是レ其發見以來亞
米利加土蕃ニ名クルニ印度人ヲ以テスル所以
ナリ

(十) コロンブス若干ノ金碗ト土蕃二三人ヲ齎
シ纜ヲ解テ西班牙ニ歸航ス途ニ暴風ニ遭フ十
五日間船殆ント覆没セントスコロンブス神色
自若タリ其發見ノ或ハ共ニ煙滅シテ世人ノ之

ヲ知ルナキニ至ラントヲ憂ヘ匆々簡短ノ紀行
ヲ草シテ油布ニ纏ヒ蠟封シテ之ヲ空桶ノ中ニ
藏メ海ニ投ス幸ニシテ其ノ或ハ航海者ノ手ニ
墜テ或ハ泛漾シテ海岸ニ漂著セントヲ期シタ
ルナリ然ルニ幸ニシテ風歇ニ濤収マリテ終ニ
パロース港ニ還ル迎衆喝彩地ヲ動カシ驚歎措
カス當初纜ヲ此港ニ解テヨリ茲ニ七閱月餘ナ
リ即チ上朝シテ王ニ謁ス西廷之ヲ待ツ太々渥
シ

(士) 後ヲコロンブス其地ニ航スル再三千四百

九十八年ソノ第三回ノ航海ニ於テ南亞米利加
ノ大洲ヲ發見スコロンブス功ヲ奏シ名ヲ揚ク
斯クノ如シ人豈ニ之ヲ猜忌セサテシヤ西廷ノ
公卿相率テ黨ヲ結ヒコロンブスヲ讒スコロン
ブス竟ニ冤枉ニ坐シヒスパオラ主管ノ任ヲ褫
ハレ郷國ニ鍊致セラル其船長コロンブスヲ護
送スルニ方リ深ク其辱ヲ受クルノ不幸ヲ憫ミ
優待至ラサルナシ途ニ竊ニ其桎梏ヲ解カント
スコロンブス怫然色ヲ作シテ曰ク否々余ハ桎
梏ヲ受ルモハ固ト西王陛下ハ令スル所ナリ凡

ハ陛下ハ命スル所唯是レ從フハミ余ヤ已ニ陛下
下ハ救ハ必テ幽囚セラル故ニ余ヲ釋スモハ亦
陛下ハ救ヲ受クルニアラサレハ能ハサルナ
リト

(註) 然リ而シテコロングス終生コノ冤枉ヲ忘
レス出入必ス桎梏ヲ其身ニ伴ヒ永ク以テ負義
忘恩ノ記念ト為シ且ツ之ヲ室内ニ繫ケテ家人
ニ命シテ曰ク余箒ヲ易ユルハ日必ス屍ト共ニ
之ヲ葬ムル可シト

(註) コロングス桎梏ノ辱ヲ受ケテ西班牙ニ還

ル國人深ク之ヲ憫ミ憤然トシテ其非ヲ鳴ラサ
ルナシフエルザナンド傲然冷澹ナリト雖氏
内ニ省ミテ竊ニ慚悔ナキ能ハス然リ而シテ久
シクコロングスヲ幽シ終ニ別人ヲ以テヒスパ
ニオラノ主宰ト為ス鳴呼コロングス險ヲ冒シ
難ニ堪ヘ遂ニ能ク西方ノ新天地ヲ檢出シ古來
未曾有ノ事業ヲ成ス其功豈ニ偉ナリト謂ハサ
ル可ケンヤ而シテ之ニ報ユルニ斯ノ凌辱ヲ以
テス史ヲ著ハスモノ直筆以テ人主ノ行爲ヲ評
論スル當ニ斯クノ如クナルベシ敢テ辯ヲ好ム

ニアラス史家ノ任マタ已ムヲ得サレバナリ

(孟) コロンブス西ヨリ印度ニ通スルノ航路ヲ
發見セント欲シ後チ更ニ第四ノ航海ヲ試ミダ
リエンノ海岸ヲ搜索シ船ヲジヤマイカ島ノ濱
ニ破ル因テ一時島中ニ留マリ土蕃ヲ指揮ス曾
テ月食ヲ前言シ大ニ之ヲ驚動スコロンブス艱
苦ニ遭遇スルーニシテ足ラス水手叛シ土蕃起
リ糧食欠乏疫疾尋テ至ル既ニシテ西班牙ニ還
リ心身疲勞シ憂愁面ニ滿ツ是ヨリ復タ航セス
終ニ千五百六年春秋七十ニシテバルラドリツ

ドニ歿ス時ニ新王ヒリツプ第二世位ニ在リ特
ニ教シ壯麗ヲ極メテ其葬儀ヲ行ハシメ且ツ其
碑面ニ新乾坤ヲカスチール及ヒレオンニ與ハ
タルモハハコロンブス其人ハかナリノ數字ヲ
題セシム

(孟) 然ルニアメリキユスベシグシユスナル者
アリ千四百九十九年即チコロンブスコノ大洲
ヲ檢出セシ明年ヲ以テオジヤダヲ從ヘ海ニ航
シテ南亞米利加ノ一濱岸ヲ發見シ終ニ此大洲
ニ命スルニ偉勲顯然タルコロンブスヲシテ其

名ヲ以テスルノ榮ヲ享クル能ハサラシメタルハ抑モ亦タ不當ノ成蹟ト謂ハサルヲ得スアメリキユス自ラ其紀行ヲ草シ且ツ初メテ其本洲ヲ檢出スルノ功績アルヲ唱フ故ニ命シテ之ヲ亞米利加ト曰フモノ其名ヲアメリキユスニ取ルナリ然リ而シテアメリキユス敢テ斯ノ不正ヲ行フモ何ソ能クコロングスノ聲譽ヲ害シ自己ノ榮光ヲ添ユルヲ得ンヤ其慚恨却テ憫笑ス可キノミ吾人ハ寧口功アリテ賞ナキコロングスノ名聲ヲ加ヘント欲スルモ他人ノ榮譽ヲ僭

奪スルカ如キアメリキユスノ舉動ヲ誹評セント欲スルナリ

(去) 千四百九十七年葡萄牙人バスコ・ダ・ガマ始メテ喜望峰ヲ周航シテ印度ニ至ル是レコロングスノ素志ニシテ百餘年來世人ノ索査ヲ怠ラサル所ナリ茲ニ至リ遂ニ埃及ヲ經スシテ更ニ東印度ニ達スルノ便路ヲ得タリ千五百十九年葡萄牙人マゼラン西班牙ニ仕フ一海峡ヲ經テ一大洋ニ入ルマゼラン其海峡ニ命スルニ自ラ其名ヲ以テシ其大洋ヲ名クルニ太。平。ノ。號

ヲ以テス不幸ニシテヒリツピン郡島ニ歿スル
モ隨從ノ徒其志ヲ繼キ益進行シテ遂ニ初メテ
環宇ヲ周航スルヲ得タリ

(七) ジョン・カボットナル者アリヴェニスノ産
ナリ居テ英國ノブリストルニ定ムヘンリー第一
七世ノ命ヲ奉シテ千四百九十七年五月上浣其
子セバステアーン・カボットヲ從ヘ海ニ航シテ新
地ヲ搜索シ遂ニ北亞米利加ノ大洲ヲ檢出ス是
レ恰モコロンブス南亞米利加ノ本洲ヲ發見ス
ルノ一年前ニシテアメリカユスノ之ヲ目撃セ

シ二年前ニ在リ

(六) ジョン・カボット其ノ第一ニ檢出セシ地ヲ
名ケテプリマ、ビスタト曰フ是レ蓋シニウフオ
ーランドランドノ一部ナラン而シテ更ニ北進シ
テ印度ニ通スルノ航路ヲ求ムト雖且遂ニ之ヲ
檢出スルヲ得ス終ニ針路ヲ轉シテフロリダニ
至リ沿岸ニ數基ノ十字架ヲ樹テ肅然英王ニ代
テ其地ヲ占取ス然リ而シテ其ノ英國ノ民ヲ移
シテ疆ヲ其地ニ開キタルハ數年ノ後ニ在リト
雖且猶且ツ之ヲ以テ自ラ北亞米利加ヲ佔有ス

ルノ論據ト為スニ至レリ

(九) 西人ノ此地ニ移リ大ニ新疆ヲ開キタルハ
 コロンブスノ初メテ亞米利加ヲ發見セシヨリ
 數十年ノ後ニ在リ千五百十九年フエルナンド
 コルデス小舟十一艘ヲ艤装シ兵士六百六十三
 人ヲ搭載シテ纜ヲキユバニ解キ墨西哥ヲ伐タ
 ント欲シテベラスクリウズニ上陸ス當時未タ咸
 ク火器ヲ採用セス兵士ニシテ小銃ヲ攜帶セシ
 者ハ僅ニ十三人ノミ餘ハ皆ナ弓矢劍槍ヲ用フ
 コルデス亦タ小野戰砲十門軍馬十六騎ヲ從フ

馬ノ此地ニ入りタルハ實ニ之ヲ以テ嚙矢トス

(十) コルデズ先ツトラスカラニ進軍ストラス

カラハ小共治國ノ京城ニシテ墨西哥ニ敵對ス
 コルデズ壯士六千人ヲ此地ニ募リ之ヲ從ヘテ
 墨西哥ノ國都ニ至ル墨帝モンテヅマ禮ヲ厚フ
 シテ之ヲ迎フ後チ幾モナクコルテズ欺テモン
 テズマヲ其宮中ニ擒ヘ之ヲ營中ニ護送シテ抑
 留スルモノ六月余墨人終ニ西軍ノ無情ナルヲ
 憤リ奮起シテ讐ヲ報セント欲シ兵刃終ニ交ハ
 ルモンテズマ臣民ノ傷ムル所ト為リ幾モナク

竟ニ殂ス慘闘一次西軍城外ニ逐ハル兵ヲ亡フ半ニ及ヒ小銃大砲盡ク獲ラル

(註) コルデス殘兵ヲ收メテトラスカラニ退ク

墨兵大舉ヲシテ尾撃スコルテズ途ニオチユンバニ戰テ之ヲ破ル已ニシテトラスカラニ至リ援兵ノ來ルニ會ス且ツ大ニ墨西哥ノ叛蕃ヲ募リ之ヲ督シテ其國都ニ進軍ス時ニモンテズマノ外甥ガチモダン撰ハレテ帝位ニ在リコルテズ京城ヲ圍ム幾ント三月遂ニ之ヲ拔キガチモダンヲ獲テ之ヲ殺ス忍酷至ラサルナシ嗚呼堂

々タル墨西哥ノ大帝國竟ニ僅々タル一團兇徒ノ滅ス所ト為ル斯クノ如シ悲夫

(註) 千五百十八年西人居ヲパナマニ移シ新ニ疆ヲダリエン灣ノ西岸ニ開ク且ツ此地ヲ以テ根據ト為シ屢南亞米利加ノ内地ヲ尋查シ千五百二十五年ピザルロウ海ニ航シテ白露王國ヲ發見ス時ニ白露甚タ富盛ナリ後チ西王チヤールス第五世ピザルロウヲ以テ之カ主治ト為シ兵ヲ遣テ之ヲ征服セシム千五百三十一年ピザルロウ乃チ小船三艘ヲ艦シ兵士百八十人ヲ搭

西史略

載シテパナマヲ發シ白露ニ向フ

(註) ピザルロウ僅々タル斯ノ小兵ヲ以テ白露ヲ伐テ進テ王宮ニ至ル國王アタバリパヲ延キ之ヲ待ツ甚タ厚シ且ツ説クニ耶蘇教ヲ奉スルヲ以テス而シテ卒然之ヲ擒ヘテ兵士ニ令シ其虚ニ乘シテ儀仗ヲ襲撃シ四千余人ヲ殺戮ス

(註) 白王アタバリパ其身ヲ贖ハント欲シ六十ニ立方英尺ノ居室ニ金銀製ノ寶器ヲ疊積シ以テピザルロウニ贈ル是レ皆ナ國中ニ令シテ蒐集スル所ニシテ其價英貨百五十萬磅ニ過クピ

ザルロウ之ヲ將士ニ頒與シ猶且ツ約ニ背キアタバリパヲ釋サズアルマゴロ新兵ヲ督シテピザルロウニ合シ共ニアタバリパヲ紮彈ス終ニ王位ヲ僭シ異教ヲ信スルヲ以テ罪ヲ論シ之ヲ刑ス

(註) 後チ幾モナク西軍ノ將校互ニ争ヲ生シ内訌隨テ至ルアルマルゴ俘ト為リ刑セラレピザルロウ尋テ殺サル土蕃コノ機ニ乘シ新王ハンカカパツクヲ奉シテ西軍ヲ撃ツ千五百三十二年ニ至リ軍敗レ白露竟ニ西班牙ノ附庸ト為ル

(三) 西軍侵入ノ日白露及ヒ墨西哥ノ二國土蕃ノ中ニ屹立シテ文物大ニ開ケ築造彫刻採鑛及ヒ鏤金ノ術ヲ知り地ヲ耕シ布ヲ織ル政體自ラ備リ政教ノ法典成ル殊ニ白露ハ築造ニ長シ國中宏宮壯殿多ク且ツ其奉スル所ノ宗教ハ天日ヲ拜シテ無二ノ神明ト為シ殘忍ノ風アルヲ恰モ墨西哥ニ均シ

(三) 千五百二十四年佛王フランシス第一世隣國ト共ニ新地ノ一部ヲ佔取セント欲シバルラザノニ教シテ海ニ航シ之ヲ檢出セシムバルラザノ北亞米利加ノ沿岸ヲ索查ス後チ十年ヲ經テゼーラムスカルチールマタ遠航シテシントロウレンスノ灣口ヲ溯リ佛王ニ代テ其地ヲ略シ之ヲ新佛蘭西ト名ク後チ之ヲ變稱シテ加拿陀ト曰フ

(三) 千五百八十四年彼ノ有名ナルウオルトルラレー女王エリザベツスノ教旨ヲ奉シテ異端未開ノ遠地ヲ檢出シ前古未タ耶教徒ノ占有セサル所ノ新地ヲ管治セシト欲シ遂ニ亞米利加ニ至ルパンムリエ海峡ニ入りアルベマール峽

ロノローノツク嶋ニ進航シ其地ヲ佔取スラレ
一英國ニ還ルノ日飾言以テ之ヲ復命シテ曰ク
沃野千里風光畫クカ如シトエリザバツス沃美
斯クノ如キノ國土ヲ獲タルヲ喜ヒ之ヲ名ケテ
ビルジニアト曰フ以テ永ク一女王在位ノ時之
ヲ檢出シタルノ記念ト為サント欲スルナリ
(五) ウオルトル、ラレ、フランシス、ドラツク及
ヒリチヤード、グランビル相踵テ其地ニ至リ民
ヲ移シ疆ヲ開カント欲スト雖氏皆ナ遂ニ其志
ヲ達スル能ハス或ハ英國ニ歸リ或ハ病テ死シ

或ハ土蕃ノ殺ス所ト為ル

(三) 當時歐洲列國人ヲ亞米利加ニ派遣シ土地
ヲ檢出スルニ隨ヒ乃チ之ヲ占有スルヲ例トス
故ニ土蕃ハ土地所有ノ權ナク恰モ林間ノ野獸
ニ異ナラス而シテ之ガ墻ヲ作ル者ハコロンブ
スナリ蓋シ其初メテシント、サルバードルヲ發
見スルヤ身ニ美服ヲ著シテ手ニ拔劍ヲ携ヘ王
旗ヲ翻シテ西王ニ代リ全島ヲ佔取ス且ツ碑ヲ
立テ之ニ題スルニコロンブス新天地ヲ西王ニ
獻スノ數字ヲ以テスルカ如キ則チ是ナリ

(註) 羅馬教王西人ノ亞米利加ニ至リ發見スル所ノ地ヲ以テ安ニ之ヲ西王ニ與フ矇昧不文ノ世教王ノ權渾テ斯クノ如シ而シテ其地ヲ略スルニ名ヲ耶蘇教ノ傳布ニ托ス故ニ天下清寧人類相憐ムノ教旨ヲシテ縱ニ不義不正ヲ行フノ道辭タラシメ自守自防ノ道ヲ知ラサルノ土蕃ヲシテ兇惡無頼ナルコルテズビサルロウ等ノ暴虐ヲ受ケシムルニ至ル

(註) 當初西人ノ亞米利加ニ至ルヤ其志金銀ヲ得ルニ在リ故ニ唯之ヲ求ルニ汲々トシテ千險

百難毫モ怖ル、コナク數萬ノ土蕃ヲ驅テ之ヲ採鑛ノ業務ニ役シ人命ヲ殞ス勝テ計ル可カラス且ツ之ヲ分收シテ各移住ノ人ニ販賣ス其状宛モ牛馬ヲ待ツカ如シ而シテ土蕃體質薄弱ニシテ其苦役ニ堪ヘズ為ニ死スルモノ陸續相踵キ千五百八年シントドミンゴ島中ニ在ルモノ六萬人ナルモ千五百十六年ニ及テ僅ニ一萬四千入ヲ留メ數年ナラスシテ諸島概テ土蕃ノ跡ヲ絶タントスルニ至レリ

(註) ラスガサス等苟モ慈仁ノ心アル人ハ大ニ

土蕃ヲ苦役スルノ非ヲ鳴ラシテ已マス後チ幾
モナク人ミナ役夫ヲ亞弗利加ニ求メ以テ之ヲ
採鑛并ニ農事ニ使用ス黑奴ノ身體健全ナル者
ハ一人ニシテ能ク土蕃四人ノ業ヲ執ルヲ得タ
リト云フ

(語) 千五百三年葡萄牙人始メテ亞弗利加ノ黑
奴ヲ西印度ニ輸送ス千五百十一年西王フエル
ヂナンド教ヲ發シ更ニ許多ノ黑奴ヲ入ル是ヨ
リ歐洲諸國概チ賣奴ノ慘業ヲ行フ就中西葡二
國ノ如キハ今ニ於テ猶ホ之ニ從事ス故ニ諸國

ニ先ンシテ之ヲ行ヒ諸國ニ後レテ之ヲ廢スル
者ト謂フ可シ

北亞聯邦史

第一章 開疆記事

ビルヂニアニ

ウヨーク

新英倫ノ殖民

土蕃ノ亂

マリイランド

ペンシルバニア 即チ紀元後

千六百七年ヨリ千六百八十
二年ニ至ル

(一) 一家已ニ虚傲自大ノ心アリ一國豈ニ其心
 ナカラシヤ各相競テ起源ノ暗昧ナルヲ唱ヘ以
 テ自傲偏私ノ意ヲ滿タスヲ常トス然ルニ北亞
 聯邦憲北亞聯邦ノ建國ハ實ニ千七百七十六年
 所轄ニ屬シ之ヲ英屬北里新疆ト名ク後チ佛屬
 キンユ及ヒカリフホルニ至テハ百事大ニ之ト
 ニアノ諸州版圖ニ入ルニ至テハ百事大ニ之ト
 相異ナルモノアリ國人却テ開國ノ新近ニシテ
 發達ノ迅速ナルト果シテ其隆盛ノ預期ニ違ハ
 サルトヲ以テ榮光ト爲シ自ラ之ヲ誇ル者ナリ
 方今富强ノ獨立國中ニ於テ其起源ノ新近ニシ

テ事跡ノ明白ナル是國ニ如クハナシ環宇ノ史
 乘ニ於テ開國以降僅々數十年ニシテ富强自由
 敢テ自餘ノ古國ニ譲ラサル北亞聯邦ノ如キモ
 ノハ未タ曾テ之レアラサルナリ
 (二) 人口財貨日ヲ逐フテ増殖シ是國社會ノ進
 歩駸々已マサルモノ其起因一ニシテ足ラス當
 初居ラ此地ニ移スモノ皆ナ文明諸國ノ人民ニ
 シテ開明ノ技術之ト共ニ此國ニ入ルノミナラ
 ス皆概子才略ニ富ミ政教ノ自由ヲ愛ス故ニ移
 住ノ初メ特ニ意ヲ用ヒテ教育ノ増進ヲ計ル略

西史要略 卷之六
アリテ勞スル者ハ富ヲ致スノ道目前ニ在リ衣食ノ資饒ニシテ之ヲ得ル甚タ易ク沃野千里無人ノ地多シ之ヲ獲テ新疆ヲ開ク固ヨリ難事ニアラス而シテ外交通商漸ク盛ニシテ文明諸國ト和親シ因テ以テ百般ノ文物ヲ上進スルヲ得ルニ至レリ

(三) 是國殖民ノ起因ハ之ヲ要スルニ英國ニ於テピウリタンス教徒ヲ殘害スルノ酷シキト冒險ノ徒妄ニ空想ヲ画キ新地ヲ開キ大利ヲ網セント欲シタルノ二者ニ過キス即チ新英倫ヲ開

キタルハ其第一因ニシテビルジニア及ビニウ
コックヲ開キタルハ其第二因ニ出ツ之ヲ新疆
開元ノ地ト為ス

(四) 當初居ヲ此地ニ移ス者ナク遠ク開明ノ故
國ヲ去テ新ニ草昧ノ濱岸ニ定住シ獨リ衣食ノ
供給ニ乏シキノミナラス常ニ蠻族ト接シテ襲
撃ノ虞ナキ能ハス其苦ヲ受クル蓋シ一日ニア
ラサルナリ疾病饑寒相踵テ至リ土蕃ノ攻掠聞
斷ナシ時ニ或ハ望ヲ絶チ其地ヲ棄テント欲ス
ルニ至レリト雖氏精ヲ勵シ難ニ堪ヘ確乎動力

ス計畫序アリ遂ニ能ク百害ヲ芟除シ盡シテ國
勢自ヲ興リ財貨人口共ニ大ニ増殖スルニ至レ
リ
(五) 千六百六年四月十日英王始メテ允可ノ証
書ヲ下シ北亞米利加ニ移リ疆ヲ開カシメ亞米
利加洲中北緯三十四度ヨリ四十五度ニ至ルノ
地ヲ以テビルシニアト名ケ二種ノ商會ヲ設ク
一ハロンドン會社ニシテ一ハプライモース會
社ナリロンドン會社ハ北緯三十四度ヨリ四十
一度ニ至ルノ地ヲ領收シテ之ヲ南部ビルジン

アト名ケプライモース會社ハ是ヨリ以北ノ地
ヲ佔有シテ之ヲ北部ビルジンアト名ク
(六) 英王未ダ此證書ヲ下サ、ルノ時ニ當テビ
ルジニアヲ開カント欲シテ遂ニ其意ヲ達スル
ヲ得サルモノ數回ニ及ヘリ是レ前章已ニ記ス
所ナリ千六百七年兵船ニウポルト險行ノ徒百
五人ヲ組織シテ一社ト爲シ之ヲ率テ海ニ航シ
ポーハツタン河流ヲ溯テ壘ヲ築キ府ヲ開キ之
ヲ名ケテゼームストウント曰フ以テ英王ゼー
ムスノ名譽ヲ稱揚スルナリ開疆ノ功ヲ奏スル

之ヲ以テ嚙矢ト為ス當初七名ノ公會ヲ置キ更ニ互撰シテ一人ノ會長ヲ定メ以テ疆政ヲ掌ラシム

(七) 初任ノ會長ヲウイングフヒールドトス然ルニ兵總ジヨン、スミス會員中ニ於テ特ニ俊秀ノ名アリ明年撰ハレテ會長ト為ル社中之ヲ仰テ疆祖ト名クスキス曾テ埃國ノ軍中ニ在リ一隊ノ騎兵ヲ督シテ土耳其ト戰ヒ獲ラレテ公斯担丁堡ニ檻致セラレ終ニ賣ラレテ奴ト為ル後チ自ラ其厄ヲ脱セリト云フ性險行ヲ好ミ豪毅

撓マス畢竟スルニ社中ノ徒ヲシテ遂ニ其志ヲ達スルヲ得セシメタルハスキスノ才略人ニ過クルノ致ス所ナリ

(八) 幾モナク疆民土蕃インヂアント闘フ是ヨリ先キ英人ノ之ヲ待ツ甚タ苛酷ナリ故ニ寧口我ヨリ之ヲ挑ミタルモノト謂フ可シ千五百八十五年ソルリチャード、グレンヒル土蕃ノ城邑ヲ燬キ其貯穀ヲ燼滅ス其ノ曾テ銀盃ヲ偷ムノ罪ニ報ユルナリ又タテンナル者アリ嚮ニソル、リチャード留ル所ノ險行ノ徒ヲ率テ一酋長ヲ殺シ且ツ土

蕃ヲ殺シ或ハ之ヲ虜獲スル幾人ナルヲ知ラス
 (九) 開疆ノ初年スミスノ身ニ一珍事ヲ生ゼリ
 其説ク所ニ據レハ一日出テ、獵ス土蕃二百名
 隊ヲ成シテ來リ之ヲ擒ニスミス技藝アリ且
 ツ氣力ヲ富ム土蕃之ヲ嘉尚シテ終ニ其拘束ヲ
 解ク後チ幾モナク土蕃三百人黨ヲ結テ又夕之
 ヲ拿ヘボウハツタンノ前ニ致スボウハツタン
 ハ權勢無比ノ酋長ナリ
 (十) 已ニシテスミス死刑ノ宣告ヲ受ク土蕃其
 頭ヲ石上ニ横ハラシメ一撃以テ將ニ之ヲ撞殺

セントス時ニボウハツタンノ愛女ホカシタス
 歳僅ニ十二スミスニ代リ哀ヲ請フ再三ニシテ
 遂ニ允サレス跳テ其前ニ進ミ頭ヲスミスノ頭
 上ニ疊子決然トシテ共ニ刑ヲ受ケント欲ス是
 ニ於テボウハツタン哀憐ノ情忽チ動キ終ニ之
 ヲ釋ス
 (十一) 後チ二年ヲ經テ千六百九年ボカホシタス
 密ニ土蕃ノ謀反ヲ告ク疆人は是ヲ以テ幸ニ難ヲ
 免ルボカホシタス才智人ニ過ク後チ父ノ許諾
 ヲ得テロルフニ嫁スロルフハ少壯ノ疆紳ナリ

ナリ婚儀甚ク壯麗ナリ是ヨリボカホクタス力
ヲ盡シテ彼我ノ間ヲ調停ス夫ニ從テ英國ニ至
リ耶穌教師ノ門ニ入り終ニ洗禮ヲ受ク而シテ
將ニ亞米利加ニ皈ラントスルニ臨ミ病テ歿ス
年二十二一子アリ子孫今ニ至リテ漸ク興リビ
ルジニア州中紳士ノ家ヲ成ス

(十二) 移住ノ初年疆民衣食ノ欠乏ニ困シム甚シ
ク疾病隨テ至リ數月ヲ出テスシテ死スルモノ
半ニ及フ而シテ其末年ニ及テ新ニ二百人ノ渡
來アリ漸ク其欠ヲ補フ

(十三) 千六百九年ノ末ニ至リ兵總スミス英國ニ

還ハスミスハ新疆ノ盾劍ナリ故ニ其去ルヤ幾
モナク社中ヲ舉テ困難ノ極ニ陥リ兵總ヲトク
リツフ三十人ノ小隊ヲ將テ土蕃ト戦ヒ盡ク殺
サル千六百十年糧食ヲ浪費シ饑荒隨テ至ル後
世之ヲ名ケテ餓死ノ時ト曰フ

(十四) 饑災ノ酷シキ六月間ニシテ五百ニ幾キノ
疆民死シ盡シテ僅ニ六十人ヲ遺スニ至ル是ニ
於テ皆大ニ氣力ヲ失ヒ此地ヲ去テ英國ニ歸ラ
ント欲シ己ニ意ヲ決シテ船ニ登ル會爵紳デラ

ワル主疆ノ職ニ任シ更ニ新允可證ヲ得テ百五十人ヲ率ヒ多量ノ糧食ヲ携ヘ來ル之ヲ説テ猶ホ此地ニ留マラシメ幾モナク百事面目ヲ改メ疆運漸ク興ル

(五) 初メテ新疆ヲ此地ニ開テヨリ星霜已ニ十二年ヲ經タリ而シテ存在スル者僅ニ六百人許リ降テ千六百十九年ニ至リ船舶十一艘ヲ以テ更ニ千六百十六名ヲ搭載シ來リ大ニ其人員ヲ加フ此輩多クハ單身險ヲ冒シテ此地ニ至ルモノ其志固ヨリ富ヲ致スニ在リ事成ラハ則チ故

國ニ歸ルヲ期ス是ヲ以テ永ク之ヲシテ定住ノ念ヲ起サシメント欲セハ各其婦ヲ迎フルノ便ヲ得セシメサル可カラズ因テ千六百二十年ヨリ千六百二十一年ニ至リ妙年貞淑ノ婦女ニシテ未タ婚嫁セサルモノ百五十人ヲ英國ヨリ輸送シ以テ購フ者ノ需ニ應ス初メ一婦ノ價煙草百磅ニシテ漸ク其數ノ減少スルニ及テ騰貴シテ百五十磅ニ至ル當時煙草一磅ノ價英貨三志ニ該當セリ千六百二十年和蘭ノ兵艦黑奴二十人ヲ載セテビルジニアニ至リ之ヲ賣テ奴ト為

ス之ヲ英屬亞米利加ニ於テ賣奴ヲ行フノ權與
トス

(其) 是ヨリ疆民心ヲ農事ニ用ヒ銳意特ニ煙草
ノ耕耘ニ從事ス而シテ新ニ居ヲ移スモノ年ヲ
逐フテ漸ク増加シ稍昌榮ノ域ニ向フ然ルニ千
六百二十二年急變ノ將ニ至ラントスルニ會シ
闐疆驚動スポウハツタンノ後嗣オペカンカノ
一詭計ヲ以テ疆民ヲ勦滅セント欲ス而シテ未
タ取テ之ヲ發セス其前僅ニ二三時ニシテ疆民
大半之ヲ探知シタリト雖厄不幸ニシテ土蕃ノ

毒手ニ斃ル者三百四十七人ニ及フ争亂墮テ
至ル後チ幾モナク又々饑荒ニ遭フ曾テ英國ヨ
リ移住スル所ノ人員九千ナルモ千六百二十四
年ニ至リ僅ニ千八百人ヲ留ムルノミ幾モナク
新渡ノ移民アリ終ニ其欠ヲ補フ

(其) ジョン、ハルバーノ疆政ヲ司ルヤ商業ヲ箱
束シテ下ヲ虐スル酷シ疆民困弊ス千六百三十
九年ウイルレム、ベルケレー知疆ト為ルベルケ
レー才略俊秀職ニ在ルコロンウエル國保タル
ノ時ヲ除キ四十年ニ幾シ其間疆勢隆興ス然ル

ニチャールレス弟二世其商業ヲ檢制シ怨言巷ニ
滿ツ千六百七十六年ベルケレーノ任期將ニ滿
チントスルニ及テ疆民亂ヲ作ス此事特ニビル
シニアノ史乘ニ著ハル之ヲ名ケテバーコンノ
亂ト曰フ即チ賊魁ノ名ニ因ルナリ

(六) 千六百六十年人口大約三萬ニ至リ後チ二
十八年ヲ經テ其數ニ倍ス當初險ヲ冒シテ此地
ニ來ル者ミナ金銀ヲ檢出シ以テ富ヲ致サント
欲ス其船ノ歸航スルニ及テ一艘ニハ燦爛タル
土塊ヲ載セ一隻ニハ煙草ヲ載ス而シテ其土塊

ハ鑛夫ノ誤リ認メテ金質アリト為ス所ナリ千
六百十六年ニ及フコ口始メテ煙草ヲ栽植シテ
ヨリ幾モナク疆民首トシテ心ヲ之カ耕耘ニ用
ヒ終ニ産業ノ要部ヲ占メ隨テ商業ノ媒助ト為
リ政府之ヲ以テ稅ニ充ツルヲ許スニ至レリ

(七) 千六百九年ヘンリー、ホドソンナル者アリ
身英國ニ生レテ和蘭ニ仕フ西北ニ向テ印度ニ
通スルノ路ヲ尋査ヤント欲シ海ニ航シテ一美
流ヲ檢出ス其河今ニ至リホドソンヲ以テ名ク
千六百十四年蘭人初メテ居ヲ移シ疆キ以テ永

住ノ基ヲ立テ城壘ヲアルバニ一及ヒマンハツ
タン島ニ築クマンハンタン島ハ方今ノニウヨ
ーク府ノ在ル所ナリ全疆ヲ總稱シテニウゼル
ランドト曰ヒマンハツタル島ノ新地ヲ名ケテ
ニウアムストルダムト曰フ後チ英人ノ其地ヲ
侵略スルニ至ルマテ猶ホ其名ヲ存ス

(三) 蘭人此地ヲ有ツ四十余年其間バン、トウイ
レルキユフト及ヒストイベサントノ三人相繼
テ知疆ノ職ニ任シ之ヲ治ム英属ノ新疆蘭属ノ
地ト相接シ境界分明ナラス争論止ムナシ

(世) 千六百六十四年英王チャールズ二世和
蘭ト兵ヲ構ヘ疆事ヲ顧ミルニ遑アラズ因テ之
ヲ皇弟公爵ヨークニ與フ參將ニコラス英軍ヲ
帥テ知疆ストイベサントヲ下シ地ヲ舉テ英國
ノ所轄ニ属シ府州共ニ之ヲ名ケテニウヨーク
ト曰フ即チ公爵ヨークノ名譽ヲ稱揚スルナリ

(世) 北部ビルジニアハ嚮ニプライモース會社
ノ領有スル所ナリ千六百七年サガタホツク河
畔ニ小驛ヲ開キ同年ゼームストウンヲ創スサ
ガタホツク一ニケン子ペツクト名ク而シテ幾

モナク疆ヲ棄テ其地ヲ去ル千六百十四年兵總
スミス此地ニ來航シ沿岸ノ港灣ヲ精査ス英國
ニ歸ルノ日自ラ其地圖ヲ製シ之ヲ太子チャ
レスニ獻スチャレス北部ビルジニアノ名ヲ
改メテニウ、エングランドト為ス千六百二十年
英王ゼームス特ニ允可ノ證書ヲ公爵レノーフ
エルヂナンド、ジヨード以下數名ニ與ヘ之ヲ名
ケテニウ、エングランドノ疆政ヲ審議ス可キテ
ボン郡中プライモース公會ト曰フ即チ北緯四
十度ヨリ四十八度ニ至ルノ地ヲ領收シ尋テ遠

近各地ヲ占取ス

(三) ニウ、エングランドニ於テ初メテ永遠ノ新
疆ヲ開キタルハ實ニ允可證書下賜ノ年ニ在リ
ピウリタンス教徒百一人マツサキセツツノブ
ライモースニ移住スルモノ是ナリピウリタン
ス教徒ハ英國ノ國教ニ離反シタル者ニシテ當
時其數漸ク増加シ教規拜儀共ニ一層ノ純清ヲ
欲ス故ニ此名アリ後チ此一小疆ハ終ニジヨン、
ロビンソン立ツル所ノ地方教會ノ一部ヲ成ス
ニ至レリロビンソンハインデパンダンツ教派

即チコングレゲーシヨナリスト教派ノ始祖ナ

リ

(苗) 是ヨリ數年前コングレゲーシヨナリスト
教徒英國ニ在テ難ニ遭ヒ其牧師ト共ニ和蘭ニ
走ル其中終ニ難ヲ避ケテ居ヲ亞米利加ノ曠野
ニ移シ以テ信教ノ自由ヲ得ント欲スル者アリ
而シテ當時猶ホ未タ耶蘇教信奉ノ國土ニ於テ
信教寛恕ノ何タルヲ知ルチシ況ンヤ之ヲ行フ
者オヤ故ニ英國ニ於テ其國教ヲ信スル者ピウ
リタンス教徒ヲ殘害スル酷シピウリタンス教

徒モ亦タ其已レニ反スル者ヲ寛恕スルナク之
ヲ窘ム至ラサルナシ

(廿) 千六百二十九年九月六日英國ノ移民帆船

メーフロール號ニ搭シテ纜ヲプライモースニ
解キ新疆ヲホドソシ河畔ニ開カント欲ス然ル
ニ逆風ニ遭テ更ニ北方ニ進航シ十一月ニ至リ
初メテケープコツドヲ檢出ス皆固ヨリ居ラ此
地ニ定ムルノ念ナキヲ以テ各隊ヲ成シテ其地
勢ヲ尋查ス時已ニ嚴冬ニ向ヒ其辛苦言フ可カ
ラズ終ニ一港灣ヲ發見ス千六百二十年十二月

十二日其港岸ニ上リ一府ヲ開キ之ヲプライモ
ースト名ク其ノ英都プライモースヲ發見シタ
ヲ以テ名ヲ之ニ取ルナリ

(其) 移民ノ難ニ遭ヒ苦ヲ受クルノ酷シキ非常
ノ決意アル者ニアラサレハ之ニ堪ユル能ハス
蓋シ怒濤萬里未檢ノ海岸ニ著シテヨリ天候地
氣共ニ嚴烈ニシテ身ハ長途ノ航海ニ疲勞シ衣
食己ニ乏シク又夕雨露ヲ凌クノ家ナシ故ニ此
地ニ至ルノ後チ幾モナク皆チ病ニ罹リ三月間
ニシテ死スル者ソノ半ニ及フ而シテ其病勢ノ

熾ナル一時ハ健全ナル者僅ニ六七名ニ至レリ
(其) 既ニシテ共治政體ヲ立テジヨン、カルベル
ヲ推シテ之カ知疆ト為スカルベル千六百二十
一年ヲ以テ段シウイルレム、ブラツトフオールド
其職ヲ嗣ク毎年知疆ヲ撰任スルヲ法トス初メ
輔官一人ヲ置ク中コロ之ヲ五名ト為シ終ニ増
員シテ七人トス明春ニ至リ大麥及ヒ菟苳ヲ播
種シテ収獲若干アリ又夕土蕃スクワント來テ
懇ニ蜀黍ヲ栽培調烹スルノ法ヲ傳フ是ヨリ先
キ疆民未夕蜀黍ヲ目撃セサルヲ以テナリ爾後

永遠一定ノ疆産ト為リ疆民因テ以テ糊口ノ資ト為スニ至ル且ツ數年ノ間盡ク財貨ヲ共有セ

リ (其) 疆民自ラ兵制ヲ定メマイルス、スタンデスヲ以テ之カ將帥ト為ス以テ土蕃ノ襲撃ニ備フ

ルナリ千六百二十一年三月サモセツト至リ依然トシテ好意ヲ表シ且ツ詳ニ此地ノ情勢ヲ語

テ曰ク數年前瘟疫大ニ行ハレ遠近ハ土蕃幾ハト珍クトワンパノードグス種族ノ酋長マツサソ

イト勢威比ナシト稱スサモセツト彼我ノ間

ニ周旋シ終ニ之ト和ヲ約ス爾後ヒリツプノ亂

アルニ至ルマテ互ニ之ヲ守ル五十四年ニ及フ

(其) 是ヨリ英國ノ人民居ヲ此地ニ移スモノ陸

續相踵ク志行共ニ曩ニ初メテプライモースニ

定住セル者ニ均シ千六百二十八年ジヨン、エン

ヂコツト險行ノ徒ヲ率テマスサキセツツ灣頭

ノ疆基ヲ創スエンヂコツト曾テナンケウ即チ

方今サレムノ在所ニ一新地ヲ開ギタリト云

フ千六百三十年ジヨン、ウインスロープ知疆ト

為リ千五百人ヲ率テチャールレストワンニ至ル

後チ幾モナク人ヲボストン及ヒ近隣ノ諸都ニ
移シ以テ之ヲ開創ス

(三) 千六百二十三年ジヨン、マソン及ヒフエル
デナンド、ジョーヂ教許ヲ得テ人ヲドローブル及
ヒポルツモースニ遣リ以テニウ、ハンプリエー
ルノ新疆ヲ開ク後チマソン獨リ此地ノ大半ヲ
領取ス子孫相承ケテ之ヲ有チ争鬪已ムナシ千
六百四十一年疆ヲ舉ケテマツサキセツツニ属
シ延テ千六百七十九年ニ至ル時ニニウ、ハンプ
リエール分立シテ別ニ政府ヲ設ク

(四) 千六百三十五年マツサキセツツノ居民六
十余人ウインガー及ヒウエザルスフヒールド
ニ移リコン子クチクツトニ定住ス千六百三十
八年ツーヒリウス、イートン、ジョン、ダベンポ
ト等ニウヘーブンヲ開ク千六百六十五年ニ至
リニ疆合シテ一ト為ル

(五) 千六百三十六年傳教師ローヂル、ウイレル
ムスプロビダンスニ至リロード、イストランドヲ
開クウイレルムス嚮ニ教説ノ協ハサルヲ以テ
マツサキセツツヲ逐ハル

(世) 移民ノ主眼トスル所ハ之ヲ要スルニ信教ノ自由ヲ得ント欲スルニ外ナラス故ニ初メ其疆ヲ開クモノ特ニカヲ布教ノ事ニ盡ス其中博學多才ノ士少シトセス古來居ヲ曠漠無人ノ野ニ移シ汲々トシテ其意ヲ興學ニ注クモノ未タ其右ニ出ル者アルヲ聞カサルナリ初メテ新疆ヲマツサキヤツツノ灣岸ニ開テヨリ十年ニシテハルバード大學校ヲゲンブリツチニ設ク

(世) 疆民德行特ニ著ハル勵精倦マス計畫序アリ自由ヲ愛シ教育ヲ重シ身ヲ修メ神ヲ敬スル

カ如キ以テ仰敬ス可キモノ多シト雖モ亦タ全ク瑕瑾ナシト言フ可カラズ是レ時勢ノ風潮ト自ラ修ムルノ足ラサルト因ルナリ

(世) 教旨苟モ相異ル所アレハ毫末モ相容レス定教以外ノ者ハ撰官就職ノ權ナカラシムルノミナラス瑣細ノ過失ニシテ方今刑律ノ問フ所ニアラサルカ如キモノト雖モ猶且ツ之ヲ嚴罰シ各人ノ舉止言論ヲ監視スル至ラサル所ナシ是ヲ以テ人ミナ教ヲ守リ身ヲ脩ムル堅固ナルニ至レリト雖モ如何セン其思想ヲ一ツナラシ

ムル能ハス其異論ヲ唱フル者ヲ待ツ愈酷ナレ
バ互ニ奮激シテ相罵ル愈酷シキヲ加フ

(其) 當初移民ノ此地ニ上陸スルヤ固ヨリ土蕃
ノ允諾ヲ得タルニアラスト雖氏土地ヲ領有シ
タルハ預メ之カ正主タル土蕃ニ議リテ之ヲ購
ヒタルナリ但タ之ヲ待ツノ刻薄ナルカ為ニ白
哲人種ノ好意ヲ信スル者ナキニ至レリ故ニ新
疆ヲニウ、エングランドニ開キタル者ハ土蕃ニ
對シテ平穩公正ノ舉動アリト謂フ可カラサル
ナリ

(其) プライモース開疆以後第三年ニシテ兵總
スタンデス小兵ヲ將テ不服ノ土蕃ヲ伐チ數名
ヲ殺ス時ニ知疆ロビンソン和蘭ニ在リスタン
デス即チ書ヲ寄セ之ヲ報告スロビンソン之ヲ
聞キ欣然トシテ歎シテ曰ク呼未タ一人ヲ殺サ
不能ク數人ヲ化スルヲ得カリト而シテプライ
モース及ヒマツサキセツツ灣頭ニ定住セル者
ハ數年ノ間土蕃ト釁ヲ生スルヲ絶ヘテ無シト
云フモ可ナリコン子クチクツトノ疆民開疆ノ
第二年即チ千六百三十七年ニ至リ大ニペクオ

ーヅ族ト闘フペクオーヅ族ハ慄忤戰ヲ好ミ其
 地ノ南東ニ據ル是ヨリ先キ屢疆ヲ侵シ殺掠ヲ
 縱ニス兵總マソン疆民ヲ督シテ土蕃ヲマイス
 チツク河畔ニ破リ俘殺合セテ六七百人幾ント
 其全數ノ三分一ヲ殲シ茅簪ヲ燬ク七十而シテ
 英軍死スルモノ僅ニ一人傷ヲ負フ者十六人ニ
 過キス
 (卅) 後チ幾モナク土蕃大舉シテ疆民ヲ殄滅セ
 ントス殊ニ蘭人及ヒ佛民ノ舉動ニ於テ物情愈
 洶々タリ是ヲ以テマツサキセツツプライイモ一

スコン子クチクツト及ヒニウ、ヘーブンノ回疆
 聯結同盟シテ自ラニウ、エンクランドノ聯疆ト
 名ケ以テ其保安ヲ計ル實ニ千六百四十三年ナ
 リ各二人ノ代議士ヲ撰任シ毎年一回輸流疆ヲ
 轉シテ會議スルヲ例トス若シ己ムヲ得サルノ
 事アルニ當テハ更ニ數回相會スルヲアリ而シ
 テ四十余年ノ間連綿結合シテ内ヲ和シ外ヲ防
 キ以テ相互ノ益ヲ為ス少シトセス後チゼーム
 ス茅二世ノ其允可證書ヲ奪フニ至テ終ニ解散
 ス是レ即チ北亞聯邦ヲ組織シテ米國ノ獨立ヲ

大成スルノ萌芽ナリ

(兜) 千六百七十五年ヨリ千六百七十六年ニ至
 リ疆民大ニ土蕃ト戦フ其激烈ナル前古比ナシ
 ヒリツプ蕃兵ヲ督スヒリツプハワンパノーク
 族ノ酋長ニシテマツスサソイトノ子ナリ常ニ
 ロード、イスラントノモント、ホープニ據ル才知
 俊秀慄悍冒ス可カラス能ク治術ニ長シ又夕能
 ク用兵ニ熟ス實ニ未曾有ノ強敵ナリ

(罌) 英人漸ク疆ヲ四方ニ擴ムルニ及テ土蕃連
 衡大舉シテ其侵佔ヲ拒キ以テ固有ノ自主獨立

ヲ保全セント欲スヒリツプ乃チ之カ巨魁ト為
 リ陰ニ疆民ヲ殲盡スルノ策ヲ立ツ

(罌) 土蕃ニシテ耶蘓教ヲ信スル者アリソーサ
 マント名ク密ニ之ヲ疆民ニ告クヒリツプ三人
 ノ土蕃ニ命シテソーサマンヲ殺サシム英人怒
 テ其土蕃ヲ刑スヒリツプ即チ之カ讐ヲ報セン
 ト欲シニウ、エングランドノ蕃族ヲ募テ之ニ寇
 ス是ヲ開戦ノ近因トス

(罌) 是時ニ當テ土蕃稍已ニ火器ノ用法ヲ知リ
 猖獗ヲ極ム交戦最モ激烈ナリナルラガンセツ

川ノ疆内ニシテ土蕃據ル所ノ林間ニ大澤アリ
即チ方今サウス、キングストンノ在ル所ノ西部
ナリ千六百七十五年此地ニ於テ無比ノ一大戰
アリ因テ之ヲ澤鬪ト名クプライモースノ知疆
ジヨニア、ウインスロウ英軍ヲ督シテ大ニ之ヲ
破ル死傷二百三十人兵總ヲ亡フ六名土蕃ノ死
スル者婦女幼童ヲ除キ千人許リ草藪ヲ燬ク五
六百ニ及フ
(罍) 敗後土蕃舊態ニ復スルヲ得スト雖凡往々
疆民ヲ殺戮シ焚掠ヲ縱ニス終ニ千六百七十六

年八月ニ至リ英傑ヒリツプ一土蕃ヲ辱シム土
蕃怒テ之ヲ銃殺シ兵總バンシヤミン、チヨーチ
ノ隊中ニ投ス是ヨリ土蕃復タ振ハス疆民之ヲ
聞テ拊喜相賀ス土蕃幾モナク或ハ服シ或ハ去
ル既ニシテ役畢ルノ後チニウ、エングランドノ
疆民佛人ト戰フ佛人土蕃ヲ役シ英軍ヲ窘ム
(罍) 此役ヤニウ、エングランド中毎戸幾ント其
禍ニ罹ラサルナク當時英人ノ全數六萬許ソノ
中婦女幼童ヲ除キ壯丁ノ戰死スルモノ六百人
ニ幾シ而シテ俘ト爲ルモノ亦タ少シトヤス家

ヲ燬ク六百許府ヲ毀ツ十二三其他什器牛馬ヲ
殺ス甚タ多シ每户各人朋友眷族ヲ亡ハサルナ
ク舉疆喪ニ在リ

(置) マリールランドノ開祖ヲジヨード、カルミル
ド爵紳バルチモールトスジヨード、ハゼームス
第一世ノ待史タリ深ク舊教ヲ信シ亦タ治術ニ
長ス初ノビルジニアニ至リ舊教ノ徒ヲ其地ニ
移シ以テ一新疆ヲ開カント欲ス然ルニ土蕃ノ
之ヲ待ツ厚カラス故ヲ以テ更ニ志向ヲ一轉シ
テポトマツク河北ノ地ニ入リチャールス第一

世ノ勅許ヲ得テ遂ニ之ヲ領有ス名ヲ其居ヘン
リツタマリアニ取り之ヲマリールランドト曰フ
允可ノ期未タ滿チサルニ當テジヨード已ニ歿
シ長子セシリウス更ニ勅許ヲ受ケ産業ヲ紹ク
疆務ヲ理スル四十余年俊明ニシテ且ツ慈心ア
リ
(置) セシリウスノ兄弟レオナード、カルベルト
初メテ知疆ノ職ニ任ス千六百三十四年二百余
人ヲ率テレント、マリールス府ノ基ヲ開ク之ヲ要
スル治績顯赫功業見ル可キモノ多シ普ク宗教

ヲ寛恕シ土蕃ヲ待ツ慈仁平等ヲ主トス
 (罌) 千六百八十一年彼ノ有名ナルウイレルム
 ペンチャーレス弟二世ノ敕許ヲ得テ一方地ヲ
 開ク後チ之ヲペンレルバンアト名ク其名ヲペ
 ンニ取ルナリ其父水師提督ペンカラ王事ニ盡
 レテ大勲アリ英王遂ニ之ニ報ユルヲ得ス因テ
 其地ヲ其子ニ與ヘ以テ賞ニ代ユ千六百八十二
 年マシニ千人ヲ率テ此地ニ至リ明年ヒラデル
 ヒアノ府基ヲ定ムペンハフレンツ教派即チク
 オーケルス教派ニ属スル者ナリ故ニ其從フ者

マタ之ヲ以テ名ク
 (罌) ベン天資英豪ニシテ立法ニ明ナリ百般ノ
 施設政教ノ自由ヲ以テ基本ト為ス故ニ耶蘇教
 ヲ信スル者ハ其教派ノ如何ニ論ナク自在ニ其
 生業ヲ營ムヲ得ルノミナラス皆ナ均シク政務
 ニ參スルノ權アリ土蕃ニ接スル慈仁平等ヲ旨
 トシ人類同胞ヲ以テ之ヲ待チ其權利ヲ享有ス
 ル白哲人種ニ異ナル所ナカラシム初メペンノ
 此地ニ至ルヤ先ツ土蕃ヲ會シ其允諾ヲ得テ後
 チ至當ノ價ヲ以テ土地ヲ買收ス

(兎) ペンニ從属スル者ミナ之ニ倣ヒ彼我互ニ其約ヲ守リ交通相和ス四十余年是ニ由テ之ヲ觀レハ縱令ヒ草昧野蠻ノ地ト雖モ之ニ入テ新ニ疆ヲ開キ能ク之ヲ化シテ自ラ其身ヲ護ルモノ厚意信義ノ力遙ニ劍鋒ニ勝ル所アルヲ知ル舉疆其堵ニ心シ奎運漸ク昌盛ニ向フ往時ライクロヂウススパルタヲ舉テ全國ミナ兵ナラサルナキニ至ラシメ以テ其國ヲ護リタルニ比スレハ其成績更ニ幾倍ナルヲ知ラス

(卒) 人口ノ増殖セル疆運ノ隆興セルペン開ク

所ノ新疆ニ及フモノナシ土壤肥潤ニシテ風雨時ニ順ヒ絶ヘテ土蕃ト罅隙ヲ生スルヲナク疆民安シテ政教ノ自由ヲ享ク是ニ於テクオケル教派ニ属スル者及ヒ歐洲諸國ニ於テ虐政ノ下ニ立チ殘害ヲ被ル者ミナ争テ難ヲペンシルバニアニ避ク

(至) ローヂルウイルレムスノロードイスラントニ於ケル爵紳バルチモールノマリーランドニ於ケルウイルレム、ペンノペンシルバニアニ於ケル當初其基ヲ開クノ日ミナ信教ノ自由ヲ

許ス而シテ寛政ヲ公唱シ果シテ其實行ヲ得タルモノ此三疆ヲ以テ嚆矢トスロードイスラント以外ニウ、エングランドノ疆民異信ノ徒ヲ殘害スル前章已ニ説ク所ノ如シベルジニアニ於テモ亦タ英國ノ國教ニ反スル者ヲ窘メタリト云フ

第二章 疆民苛政ニ困ム 佛人ト戰

フ ロイスボルクヲ略ス

ニウ、エングランドノ征討

カナダノ侵略 即チ紀元後

千六百八十二年ヨリ千七百

六十三年ニ至ル

(一) 英人初メテ北亞米利加ニ渡航シ疆ヲ開キ以テ永ク居ヲ其地ニ定メテヨリ以來スチユアルト統ノ君主相繼テ英王ノ位ニ在リ治ヲ施ス殘虐ナラサル莫シ是ニ於テ英國ノ人民居ヲ亞米利加ニ移スモノ益多キヲ加ヘ疆民マタ屢其允可ノ證書ヲ失ハントス而シテ英王終ニ之ヲ奪ヒ知疆ヲ派遣シテ之ヲ管治セシム疆民大ニ其抑制ニ苦ム

二 英人若干名亞米利加ニ至リ故アツテ疆民
ト隙ヲ生ス其ノ英國ニ歸ルヤ構言以テ王ニ讒
ス就中エドワード、ランドルフノ如キ其最タル
者ナリ千六百七十六年チャールズ二世ノ命
ヲ奉シテ亞米利加ニ至リ爾後大西洋ヲ度航ス
ルモノ九年間ニシテ十六回ニ及フ以テニウエ
ングランドヲ壓抑セント欲スルナリランドル
フノ上表終ニ行ハレ千六百八十二年令ヲ發シ
テ允可ノ證書ヲ奪フ

(三)

エドモンド、アンドロスハ曾テニウ、ヨーク

ノ知疆タリゼームス弟二世マタ之ヲニウ、エン
グランドノ知疆ニ任スアンドロス千六百八十
六年ヲ以テボストンニ至リ疆民ヲ召集シテ其
證書ヲ出サシム既ニシテマツサキセツツノ證
書ハ之ヲ奉還セリト雖凡コン子クチキユツト
ノ證書ハハートフォールドニ於テハ兵總ワツツ
ウオールス密ニ之ヲ橡樹ノ窩中ニ藏ム初メエ
ドモンド陽ニ好意ヲ表シ寛仁ヲ示スト雖凡幾
モナク終ニ其假面ヲ脱シ治ヲ施ス抑壓至ラサ
ルナシ其自ラ亞米利加ニ在テ虐政ヲ行フ猶ホ

ゼームス第二世ノ英國ニ於テ專制ヲ施スニ齊
シカラント欲スルナリ

(四) 然ルニ虐主ノ位ニ在ル久シキヲ保タス國
人ゼームス第二世ノ苛政ニ堪ヘス之ヲ怨ム茲
甚シゼームス已ムヲ得ス終ニ遁レテ英國ヲ去
ル千六百八十八年英國ニ於テ革命ノ亂アリウ
イルレム及ヒマリー並立シテ位ニ登ル疆民之
ヲ聞テ拊喜相賀シ且ツ以為ラク是レ英米二國
ヲ併セ其民ヲ虐政ノ中ニ救フモノナリトボス
トンノ府民エドモンドランドルフ以下五十余

人ヲ拿ヘテ之ヲ獄ニ下シ且ツ其首倡ヲ英國ニ
檻致シテ之ヲ彈劾スコンチキユット及ヒ
ロードイスランドハ即時ニ其證書ヲ回得シ各
自ラ前日ノ政府ヲ復ス

(五) マツサキセツツ灣頭ノ疆民英王ニ稟請シ
テ證書ノ再下ヲ求ム允サス亦六百九十二年ニ
至リ更ニ新證書ヲ與ヘテ其自由ヲ制限シマツ
サキセツツ灣頭及ヒプライモースノ二疆ヲ合
一シテマツサキセツツト名ケマイン及ヒノバ
スコチアノ二疆マタ版圖ニ入ル

(六) 舊證書ニ據レハ知疆以下僚属ミナ各年公會ノ撰任スル所ナリ其會員及ヒ丞相ハ全疆ノ良民之ヲ推撰ス而シテ新證書ニ遵ヘハ知疆副知疆書史及ヒ海軍ノ將校ハ之ヲ疆民ニ取り以テ英王ノ治下ニ属シ且ツ代議士ヲ撰舉スルノ權ヲ與フ之ヲ疆民享有スル所ノ獨一無二ノ特例トス英王更ニ斯ノ新證書ヲ以テ疆民ノ心ヲ收メント欲シ千六百九十二年初メテウイレルムヒツプスヲ以テ知疆ノ職ニ任スヒツプスハマインノ産ナリ

(七) 一難已ニ去テ一難マタ至ル嚮ニ英國ノ革命アリ以テ大ニ其自由ヲ回復スト雖凡幾モナク佛人及ヒ土蕃ト兵ヲ交フウイレルム及ヒマリイ在位ノ日千六百九十年ヨリ千六百九十七年ライスウツキノ講和ニ至リ女王アンノ時千七百二年ヨリ千七百十三年ユートレットチノ和約ニ至ル

(八) 未タユートレットチノ和約アラサルノ前二十五年ノ間戰亂相踵キ清寧事ナキモノ僅ニ四五年ニ過キス疆民ノ兵役ニ堪ユルモノ久シク

戰ニ從事スル五分ノ一ニ下ラス時ニ或ハ其半
數ニ及フコアリ而シテ其役ニ服セサル者ハ田
圃眷族ヲ保護シ洵々トシテ片時モ安スルナシ
財源是ニ因テ幾ント盡キ疆勢日ニ衰フ田畝ハ
耕ヘサスシテ荒蕪ノ地多ク隆興ノ道全ク絶ヘ
復タ邊事ヲ顧ミルニ遑アラヌ都城多クハ焦土
ニ歸シ殘虐至ラサル所ナシ

(九) ニウ、エングランド及ヒニウ、ヨークノ二疆
ニ於テ從軍ノ丁壯ニシテ或ハ敵又ニ斃レ或ハ
病ニ罹テ死スルモノ八千人コノ國實ニ斯ノ英

華ヲ亡ヒタルナリ而シテ知己朋友或ハ戰死シ
或ハ俘ト爲リ毎戸概テ喪ニ居ラサル莫シ

(十) ユートレットチノ講和以來數年ノ間各疆清
平ニ歸シタリト雖モ千七百四十四年ニ至リ英
佛二國兵ヲ交ヘ餘焰亞米利加ニ及フ參將ウイ
ルレム、パツプレルニウ、エングランドノ兵ヲ督
シテケープ、ブレトレ島ノワイズボルグヲ略ス
是ヲ以テ此事特ニ是國ノ史乘ニ著ハルロイス
ボルグハ佛人莫大ノ資ヲ損シテ築造スル所ナ
リ其堅牢ナル時人之ヲ名ケテ亞米利加ノドン

キルク又ハジブラルタルト曰フ故ニニウ、エン
クランドニ於テハ其主眼トスル所一ニ之ヲ、拔
クニ在リ

(土) 參將ペツプレル帥ユル所ノ兵多クハ之ヲ
マツサキセツツニ募ル其數四千七十人千七百
四十五年四月四日ヲ以テカンソニ至ル後チ三
週日ヲ經テ水師部將ワルレン兵艦四艘ヲ帥テ
英國ヨリ至リ合從シテロイスボルグヲ圍ム六
月十六日佛將ロイスボルグ及ヒケーブ、ブレト
ン島ヲ舉テ竟ニ降ル

(土) 疆民之ヲ聞テ歡喜措カス更ニ進テ北亞洲
中成ク佛國ノ屬地ヲ侵略セントス是ニ於テ佛
國政府大ニ怒リ憤然トシテ讐ヲ報セント欲シ
千七百四十四年公爵アンビルヲ以テ之カ將師
ト為シ艦隊ヲ亞米利加ニ遣ル即チ一等戰艦十
一隻通常軍艦三十隻其他數艘ノ運貨船アリ精
兵三千戎器四萬副ヲ載ス以テカナダ屯在ノ兵
及ヒ土蕃ヲシテ之ヲ携操セシメ先ツロイスボ
ルグヲ復シ若シ克クサレバニウ、エングランド
ヲ蹂躪セント欲スルナリ歐洲諸國兵ヲ北亞米

利加ニ遣ル未タ曾テ斯クノ如ク強大ナルモノ
アルヲ聞カス

(三) 疆民初メテ佛國艦隊ノ至ルヲ聞キ一時震
悚ス然ルニ佛國ノ艦隊長途暴風ニ遭ヒ船體ヲ
破傷スル甚タ多ク其ノ亞米利加ニ至ルモノ半
數ニ充タス之ニ加フルニ其兵概テ病テ死シ主
將二人絶望シテ竟ニ自盡ス是ニ於テ疆民ノ恐
ル、所終ニ雲消ス其ノ異常ナル亦タ神迹ト謂
フ可キ歟

(四) 殘艦ミナ一戦ヲ試ミスシテ空シク佛國ニ

還ル是ニ於テ全疆人カヲ籍ラスレテ幸ニ其難
ヲ免ル千七百四十八年アキラチヤールノ講
和ヲ以テロイスボルグヲ佛國ニ復ス疆民之ヲ
聞テ大ニ憾ム

(五) 初メテミスシツピー河ヲ發見セシ者ハ佛
人ナリ故ニ其本流支流ヲ併セ沿岸ノ國土ハ總
テ佛國ニ屬スルモノト爲シ講和ノ明年營線ヲ
擴張シテオンタリオ湖ヨリオハイオ河ニ至リ
更ニ之ヲ下テミスシツピーヲ經過シニウ、オル
レーンスニ及フ以テカナタ及ヒロイシアナノ

二疆ヲ聯結セント欲スルナリ

(其) 英國及ヒビルジニアノ人民約シテ一社ヲ結ヒ之ヲ名ケテオハイオ會社ト曰フ敕許ヲ得テオハイオ河畔ノ地六十萬畝ヲ領有シ土蕃ト貿易シテ氈皮ヲ賣買シ居ヲ其地ニ定メント欲スルナリ因テ商館ヲオハイオ河畔ニ設ク然ルニ佛人自ラ以テ專ラ其土地ヲ占取シ其貿易ヲ行フノ權アリト為シ商賈若干人ヲ拿ヘテ之ヲカナダニ檻致ス

(其) オハイオ會社已ニ其地ヲ得テビルジニア

ノ一部ト為ス然リ而シテ斯ノ侵擽ニ遭フ豈ニ其暴行ヲ訴ヘサルヲ得ンヤ知疆ロベルト、デンウイデー疆民ヲ會シテ之ヲ討議セシム議乃チ英王ニ代テ佛人ノ破約ヲ責メ且ツ其暴行ヲ停止セシムヲ需求スルニ決ス是時ニ當テジョージ、ワシントン年二十二千七百五十三年使命ヲ奉シテオハイオ河畔ノ佛營ニ至リ主將エム、ドレント、パリーニ面議スパリー曰ク吾レ訓令ヲ守テ當ニ其行フベキ所ヲ行ヒタルナリト其証ヲ舉ケテ之ヲワシントンニ示ス

百五十五年ヲ以テノバ、スコチアクロウン、ポイン
ト及ヒナイアガラヲ伐ツ

(先) 後マタ參將ブラドツクニ隊ノ英軍ヲ帥ヒ
副將ワレントン疆兵千二百ヲ督シクエンシ
城原即チ今ノヲ攻ムフアドツク風ニ聲名
アリ然レモ野蠻ノ戰ニ熟セス佛兵土蕃ト合從

シ埋伏シテ之ヲ襲撃スブラドツク一敗地ニ塗
レ竟ニ之ニ死ス將士八十六人ソノ中死傷六十
三人兵卒ノ命ヲ殞スモノ半ニ及フワレントン
騎ル所ノ馬二頭ヲ斃シ銃丸ノ其衣ヲ貫ク四發
ニ及ヒタリト雖モ幸ニシテ一傷ヲ負フナク
殘兵ヲ收メテ退軍ス時人ソノ指揮ノ宜シキヲ
得タルヲ稱ス

(三) 參將ジョンソンクロウン、ポイントノ征軍
ヲ督シデイエスユー佛兵ヲ帥テ之ヲジョーヂ
湖岸ニ邀ヘ戰テ克タス兵ヲ亡フ七八百自ラ重

傷ヲ負フ而シテジョンソン復タクロウンポイン
ントヲ攻撃セスマツサキセツツノ知疆ソルレ
ーナイアガラ及ヒフロンテナツク城ノ征軍ヲ
帥テ將ニ發ントシ荏苒決セス天已ニ寒フシテ
進行ス可カラス役息ムノ日三軍一モ其意ヲ達
スル能ハサルナリ

(廿) 此役ヤ之ヲ公告セサリシモノ二年終ニ千
七百五十六年肅然之ヲ宣布ス候爵モントカル
ムデイエスコノ任ヲ繼ク初メ伯爵ロウトン
英軍ノ元帥タリ後チ參將アベルクロンビー之

二代ルモントカルムハ能ク兵ヲ督スルノ任ニ
堪ヘタル者ナリト雖氏英軍ノ將校ハ之ニ反シ
皆ナ懦弱ニシテ用ヲ為スニ足ラス千七百五十
六年ヨリ千七百五十七年ニ至リ連戦利アラス
疆民且ツ怒リ且ツ歎シ獨リ英將ニ向テ憤ルノ
ミナラス英國ノ政府ヲ併セ罵ルニ至ル然リ而
シテ千七百五十七年英國ノ内閣ニ交迭アリウ
イルレム、ピット(原)後チロルド、首相ト為リ百事
忽チ一新ス

(廿) ピットハ英傑ナリ米人夙ニ望ヲ屬スピツ

ト書ヲ知疆ニ寄セ傳告シテ曰ク必不當ニ英國ヨリ精兵ヲ派遣スヘク且ツ其地ニ於テモ人口ニ比準シテカヲ盡シ大軍ヲ募ルヘント兵員終ニ五萬ニ至ル其中二萬ハ之ヲ亞米利加ニ募ルモノナリ千七百五十八年三軍各其進行ヲ決シ第一軍ハロイスボルグニ向ヒ第二軍ハチコンデロゴニ進ミ第三軍ハクインシン城ヲ攻ム

(廿三) ロイスボルグノ征軍ハ其數一萬四千ニシテ參將アンヘルスト之ヲ督シ後チ參將ウオルフ其任ヲ繼ク海軍ハ兵員甚タ多ク水師提督バ

スカウエン之ヲ司令ス城兵固ク守リ奮テ之ニ抗ルト雖氏力窮テ竟ニ降ル兵員六千糧食甚タ多シ開戦以來佛兵ノ敗衄ヲ取ル蓋シ之ヨリ大ナルハ莫シ

(廿四) 參將アバルクロンビー之カ元帥タリ兵ヲ督シテチコンデロゴヲ撃ツ指揮宜シキヲ得ス軍敗レ兵ヲ亡フ二千人副將ブラツツトレット三千ノ兵ヲ帥テフロンテナツク城ヲ拔キ之ヲ壞ルクインシン城ノ征軍ハ參將フオルブス之ヲ督シテ遂ニ其地ヲ略シ更ニ之ヲピツツボル

グト名クアベルクロンビーチコンデロガニ敗
スルノ後チ人ノ侮慢スル所ト為リ參將アムヘ
ルスト元帥ニ任ス

(五) 千七百五十九年ノ役遂ニカナダヲ略ス當
時英軍ヲ分テ三隊ト為シ第一隊ハ參將ウオル
フ之ヲ督シテクビツクヲ攻メ第二隊ハ參將ア
ムヘルスト之ヲ帥テチコンデロガ及ヒクロウ
ン、ホイントヲ撃チ第三隊ハ參將プライドウ之
ヲ指揮シテナイアガラノ城堡ヲ圍ム

(六) チコンテロガ及ヒクロウンポイントノ屯

兵アムヘルストノ至ルヲ聞キテ守ヲ棄テ、去
ルアムヘルスト尋テナイアガラヲ圍ミ奮闘シ
テ遂ニ之ヲ抜ク其四日前參將プライイス之ニ死
ス
(七) 既ニシテチコンデロガ以下ノ諸城ヲ抜キ
更ニ雄將ウオルフラシテクビツクヲ環攻セシ
ムクビツクハ天險人工相須テ冒ス可カラサル
ノ金城ナリ守兵一萬人豪將モントカルム之ヲ
督スウオルフ此險ヲ意トセス却テ其勇氣ヲ加
ヘ部下ノ兵士八千人ヲクビツク岸下ノオウル

一ノ島ニ上陸セシメ之ヲ攻ムル再三遂ニ抜ク
能ハス

(其) 是ニ於テウオルフ竊ニ以為ラク敢テ險ヲ
冒シ夜ニ乘シテ河ノ北岸ニ上リ嶄巖ヲ攀チテ
城背ノ平原ニ出テ其虚ヲ衝クニ如カストモン
トカルム未夕之ヲ悟ラスウオルフ已ニ全軍ヲ
平原ニ排列ス未明ニ至リ兩軍奮闘ス佛軍終ニ
敗レ兵ヲ亡フ千五百人主将死スルモノ四人ニ
至ル英軍死スルモノ五百人佐官ヲ亡フ二人ウ
オルフ及ヒモントカルム戦焔正ニ酣ナルニ當

テ各重傷ヲ負フテ死ス

(其) ウオルフノ重傷ヲ負フヤ兵士之ヲ軍後ニ
致スウオルフ扶ケラレテ自ラ起キ戦状ヲ目撃
ス已ニシテ流血淋漓眼光矇眊タリ且ニ瞋目セ
ントス人アリ呼テ曰ク巨輩走ル巨輩走ルトウ
オルフ忽チ眼ヲ開キ疾聲問テ曰ク走ルモハ誰
ハヤト傍人曰ク敵ハリトウオルフ曰ク然ラハ
則チ死スハ憾ナシト軍勝ツキ即チ死スモント
カルムノ豪氣ナル亦コレニ譲ラス人アリ之ニ
告テ曰クか戦之ヲ支ハル久シキヲ保ツ可カラ

ストモントカラム曰ク是レ寧ロ吾か意ニ適ハ
リ吾生テクビツクハ降ルヲ見ルナカラシハ
ト

(三) 是ヨリ五日ヲ經テクビツク城竟ニ英軍ニ
降ル明年即チ千七百六十年カナダ成ク平ク千
七百六十三年巴里ノ和約ヲ以テ北亞洲中佛属
ノ地カナダノバスコチア及ヒケープブレトン
島ミナ英國ノ所轄ニ属ス而シテ英國固ヨリ此
戰ヲ喜ハサルニアラスト雖氏疆民ノ歡喜更ニ
甚シ蓋シ是ヨリ先キ佛兵及ヒ土蕃ト戰ノ數年

其厄ヲ免レンイヲ望ム渴者ノ飲モ啻ナラサレ
ハナリ

第三章

英國疆民ト罅隙ヲ生ス 戰

端ヲ開ク レキントン及

ビグンケル丘ノ戰 獨立ノ

公告 即チ紀元後千七百六

十三年ヨリ千七百七十六年

ニ至ル

(一) 疆民初メテ其居ヲ此地ニ移シテヨリ自由
ヲ愛シ權利ヲ重スル特ニ甚シ其ノ故國ヲ去テ

遠ク異域ノ亞米利加ニ移住スルモノ苛政ノ苦ヲ避ケテ政教ノ自由ヲ得ルニ外ナラス然リ而シテ猶且ツ英國ヲ以テ祖國ト為シ之ヲ思フ甚ク切ナルノミナラス英王ノ臣民ヲ以テ自ラ許シ汲々乎トシテ誠意忠ヲ盡サント欲ス

(二) 曩ニ佛兵及ヒ土蕃ト戰フ數年ノ久シキニ亘リ之ニ加ルニ英國ツノ貿易ヲ檢束シ疆民ヲシテ幾ント堪ヘ難キニ至ラシム窮苦辛艱其レ斯クノ如クナリト雖片駸々トシテ財貨人口共ニ増殖シ人生百般ノ藝術大ニ其歩ヲ進ムルノ

ミナラス千七百六十三年ノ和約以來疆勢特ニ隆興シ文武百工ニ論シク活潑有為ノ士國中ニ充溢スルニ至ル

(三) カナダヲ征略スルノ後チ佛兵及ヒ土蕃ノ患ヲ絶チ疆内始ノテ清平ニ復ス而シテ未タ幾クナラス禍難更ニ意表ニ起リ本國ノ疆民ヲ治ムル旨一日ヨリモ苛虐ニシテ闔疆震恢ス

(四) 英國ノ佛國ト戰ヒ以テ亞米利加ノ屬地ヲ衛ルヤ國債益疊積シ臣民ノ負擔隨テ増加ス是ニ於テ英國ノ議院本國ヲシテ其軍費ノ賠償ヲ

受ケレムルヲ名トシ疆民ニ課税シテ國庫ヲ充
タスノ策ヲ立ツ

(五) 然リ而シテ疆民固ク執テ從ハス乃チ曰ク
英國ヲシテ疆民ノ為ニ此役ヲ起サシムタリト
ヤンカ他ナシ新疆ハ英國須要ノ富源タルヲ以
テノ故ハミ而シテ其商權ヲ專有スルノ利益ヲ
ルカ故ニ進テ之カ守防ヲ爲シタルナリ役畢リ
勝ヲ奏スルハ後チ新疆ニ益アルモノ未タ必ス
シモ本國ヲ利セサルニアラス疆民危ニ臨テカ
ラ國事ニ盡ス其分ニ應シテ之ヲ英國ハ人民ニ

比スレハ更ニ大ナルヲ覺フ且ツ疆民ノ權利何
ソ英人ニ異ナルアラン均シク是レ英王ハ臣民
ナリ自ラ之ヲ諾シ若シハ其代議士ヲ以テ依從
ハ意ヲ代表セシムルニアラサレハ其財産ヲ奪
フ可カラサルナリト

(六) 千七百六十四年ノ早春英國ノ議院ニ於テ
一法令ヲ公布シ西印度諸島ノ英國ニ屬セサル
モノヨリ輸入スル所ノ貨物ニ課税ス是時ニ當
テ首相ダレンピル職ニ在リ決然トシテ議院ニ
告ケテ曰ク宜シク印税ヲ疆民ニ賦課スヘシト

乃チ次田ノ開會ヲ待テ之ヲ討議セシメントス
疆民之ヲ聞テ且ツ驚キ且ツ安セス口ヲ極メテ
其非ヲ辯難ス

(七) 英國ノ議院固ク執テ動カス明年即チ千七
百六十五年ノ早春ヲ以テ終ニ證印税法ヲ公布
シ税ヲ契券片記等百般ノ書類ニ課ス若シ之ニ
印税ヲ貼用セサルモノハ凡テ其効力ナキモノ
トス事亞米利加ニ聞ユ闔疆震動ス會ビルジニ
アノ公會議ヲ開ク決然率先シテ其發令ニ抗ス
パトリツキ、ヘンリーノ主唱スル所ナリマツサ

キセツツノ公會未タビルシニアノ舉動ヲ知ラ
ス衆議一決シテ英國議院ノ發令ニ從ハス且ツ
各疆ヲ聯絡シテ共ニ國事ヲ談セント欲シ總會
ヲユウ、ヨークニ開カンヲ發議ス全疆風靡シ
テ其發令ニ抗スルノ決意ヲ表ス
(八) 證印税法ノ發令ポストンニ達スルヤ葬儀
ニ倣テ寺鐘ヲ包密シ以テ之ヲ撞鳴ス英王派遣
ノ官吏ハ凡テ凌辱ヲ受ケ終ニ其第宅ヲ毀タル
知疆トーマス、ホツチンソン草スル所ノ米國史
ノ原稿ノ如キ亦タ之ト共ニ壞裂セラル自餘ノ

諸疆抗拒ノ精神ヲ表ハス皆ナ一轍ニ出ツニウ
ヨークニ於テハ其法令ヲ印行シテ之ニ觸牾ノ
圖ヲ画キ名ケテ英國ノ拙策米國ノ頽壞ト曰ヒ
大聲以テ之ヲ街頭ニ賣ル商人ノ如キモ亦夕結
合シテ相誓ヒ廢令ノ日ニ至ルマテ更ニ英國ノ
貨物ヲ輸入セサルヲ約ス

(九) 九疆ノ公會各其委負ヲ差遣シ會員通計二
十八名ヲ以テ聯疆公會ヲニウヨークニ開ク實
ニ千七百六十五年十月七日ナリ衆議一決シテ
其破權ヲ天下ニ告ケ苦難ヲ宇内ニ訴ヘ其印稅

ヲ疆民ニ偏課スルノ非ナルヲ公言スホストン
ニウヨーク及ヒヒラゲルヒアノ商賈相議シテ
印稅ノ廢棄アルニアラサレハ英國ノ貨物ヲ輸
入シ若クハ之ヲ賣買セサルニ決ス闔疆ノ民心
大ニ激昂シ抗拒ノ心愈甚シク稅吏ハ已ムヲ得
スレテ其職ヲ辭シ法令遂ニ行ハレサルニ至ル
時ニ英國ノ内閣ニ更迭アリピット爵紳カムデ
ン等ノ力ニ籍リ千七百六十六年三月ヲ以テ終
ニ其證印稅法ヲ廢ス然ルニ是ヨリ先キ英國議
院告諭ヲ發シテ曰ク何レハ時ヲ問ハス英國議

院ハ疆民ヲ檢束スルハ權アル固ヨリナリト
(十) 英國ノ内閣得意ノ政策ヲ用ヒ猶ホ依然ト
テ亞米利加ニ課税セント欲シ千七百六十七年
六月議院ニ於テ更ニ一法令ヲ發シ税ヲ茶、紙、玻
璃及ヒ色料ニ賦課ス乃チ税關ヲボストンニ設
ケ稅務委負ヲ派遣シテ之ヲ斷行セシメ千七百
六十八年九月英兵二隊府内ニ入ル英國議院マ
タマツサキセツツノ犯人ヲ英國ニ檻致シ以テ
之ヲ糺彈セシメントス疆民之ヲ聞テ囂然奮起
ス

(土) 是時ニ當テ米國ノ人心已ニ大ニ激ス之ニ
加フルニ兵ヲ遣リ以テ其民ヲ驚嚇セントスル
カ如キ却テ之ヲシテ益激昂セシメタルノミ且
ツ其怒ヲ惹起スルモノ一ニシテ足ラス國人日
ニ英兵ト爭フ千七百七十年三月五日兵總プレ
ストン將ユル所ノ兵ボストンノ府民ト鬪フ府
民三人之ニ死シ五名重傷ヲ負フ之ヲ葬ムル片
儀班壯麗ヲ極メ衆民痛ク之ヲ悲ミ且ツ怒ヲ發
ス而シテ民心稍定マルノ後チ兵總プレストン
及ヒ其兵卒ヲ法廷ニ致シ隣保ヲシテ之カ陪審

西史要略 卷之六
タラシム民權黨ノ首領ジヨン、アダムス及ヒ
ヨン、エクインシ一其辯護者タリ而シ殺人ノ罪
跡アルモノ二人ノ外ミナ釋サル

(三) 此年(千七百七十年)爵紳ノルス英國ノ首相
ト爲リ茶稅每磅三邊ヲ課スルノ外悉ク從來ノ
賦稅ヲ廢ス英國內閣ノ意見ヲ以テ新疆ニ課稅
スルノ權利ヲ鞏固ナラシメント欲スルナリ然
ルニ米人決然トシテ何種ノ稅ト雖氏其賦課ニ
從ハス而シテ千七百七十一年ニ於テハ稅事ニ
關シ特ニ記ス可キモノナシ

(三) 千七百七十二年七月マツサキヤツト洲ノ
代議院ニ於テ數款ヲ決議シ顯然英國政府發ス
ル所ノ新法ニ服セサルノ意ヲ表ス此法ヲ以テ
スレハ治疆ノ俸祿ハ一ニ英王ノ賜フ所トスル
ナリ代議院乃チ之ヲ以テ允可證書ノ條款ヲ破
ルモノト爲ス而シテ治疆斷乎トシテ且ツ之ヲ
導行ス是ニ於テボストノ府民十一月ヲ以テ
府會ヲ開キ以テ此事ヲ議シ通信委員數名ヲ撰
シ普ク州中ノ各府ニ報告シテ疆民ノ權利ヲ逐
叙シ冤屈ヲ訴フ各府ミナ齊聲之ニ應シ相告テ

曰ク我カ允可證ヲ破ルモハ一ニシテ足ラスト
 (五) 千七百七十三年ニウ、ヨーク及ヒヒラデル
 ヒアノ府民英國ノ茶船ヲ逐フ然ルニボストン
 ノ府民之ヲ存クルヲ為サス二十餘名變粧シテ
 土蕃ノ態ニ倣ヒ船ニ入テ茶匣三百四十二ヲ港
 中ニ投ス

(五) 是ヲ以テ千七百七十四年ニ至リ英國議院
 更ニ嚴令ヲ發シボストンヲ以テ特ニ反民ノ巢
 窟ト認メ之ヲ待ツ益酷シ就中波斯頓港令ノ如
 キ全ク水上ノ交通ヲ禁止スルモノナリ且ツ政

府并ニ官吏ヲサレムニ移シ治疆ヲシテ恣ニ國
 事犯人ヲ英國ニ致シ以テ之ヲ糺彈スルノ權ヲ
 得セシム是ニ於テボストンノ府民遽ニ日用必
 須ノ物品ヲ得ルニ苦ミタリト雖凡諸方ノ人民
 義損シテ忽チ其難ヲ救フニ至レリ故ニ其抑壓
 スル所却テ米入ヲシテ益協同一致シテ本國ニ
 敵スルノ精神ヲ堅實ナラシタルノミ
 (六) 五月ニ及テ北亞屯駐英兵ノ元帥タル將軍
 ダーヂボストンニ至リハツチンソンニ代リテ
 マサキヤツツノ治疆タリ後チ幾モナク更ニ大

砲糧食ヲ備ヘ二隊ノ兵ヲ送り來ル是レ則チ英國政府斷然兵力ヲ以テ疆民ヲ鎮壓セントスルノ決意ヲ明示スルモノナリ

(七) 是ニ於テ米人竊ニ以為ラク和議已ニ望ム可カラズ是非ヲ干戈ニ訴フルニアラサレハ其權利ヲ保全スル能ハサルナリト終ニ自ラ奮テ交戦ノ備ヲ為スニ至レリマツサキセツツ州ノ名士相會シテ通信委員ヲ組織シ自ラ約ヲ立テ名ケテ肅約會ト曰フ即チ其權利ヲ回復スルニ至ルマテ全ク英國ト交際ヲ絶タントヲ議決ス

ルモノナリ

(六) マツサキセツツ州ノ公廳ニ於テ疆會ヲ起スノ必要ナルヲ知り又タ一隊ノ兵ヲ徴シテ緩急事ニ應セシメ之ヲ名ケテ即時兵ト曰フ五名ノ將官ヲ任シテ之ヲ指揮セシム且ツ保安委員ヲ撰定シコンコルド及ヒウオールセストルニ於テ兵器糧糧ヲ蒐蓄セシム

(九) 九月四日ニ至リ七疆ノ代議士ヒラテルヒアニ會シ明日ヲ以テ自ラ公會ヲ組織シビルジニアノペイトン、ランドルフヲ撰テ會長ト為シ

チャールレス、トムプソンヲ以テ書吏ト為ス世之ヲ稱シテ第一大洲公會ト曰フ會員五十名ヲ以テ成ル多クハ是レ俊秀ノ烈士ナリ而シテ疆民固有ノ權利ヲ列叙シテ之ヲ天下ニ公告シ且ツ全ク英國ト通商ノ道ヲ絶チ三種ノ檄文ヲ發シテ英王英人及ヒ疆民ニ向テ其所思ヲ陳辨ス英國ノ議院ニ於テハ爵紳カツサム大ニ其檄旨ヲ稱讚セリト云フ

(三) 既ニシテ英米二國ノ軋轢愈甚シ是時ニ當テ英國海軍ノ盛ナル天下比ナシト稱ス而シテ

國富ミ兵熟シ海陸軍ノ將校ミナ精練適任ノ士ナリ然ルニ疆民ニ於テハ一ツモ之ヲ備フルナキノミナラス國中ノ軍事ヲ總括ス可キ大政府アルナシ將校兵士ノ精練兵器軍艦ノ完備及ヒ國庫歲入ノ潤饒ニ至テハ幾ント絶無ナリト謂フモ可ナリ故ニ其戰ヲ交ユルニ至テ始終意ノ如クナル能ハズ是ヲ以テ英國ニ於テハ疆民ノ敢テ當ル可カラサルノ戰ヲ試ミントスルノ愚ナルヲ嘲リ以爲ラク速ニ之ヲ鎮壓スル容易ナルノミト深ク自ラ信シテ復タ疑フナシ

(世) 千七百七十五年英國議院ニ於テ米國公會ノ舉動ヲ論シ上下二局合議一決シテマツサキセツツ州反跡已ニ顯然タルヲ上奏シ切ニ國王ニ向テ之カ鎮壓ヲ求ム乃チ同年ノ冬ヨリ春ニ至リボストン屯在ノ兵員ヲ増加シテ一萬人ト爲ス蓋シ英國政府之ヲ以テ新疆ノ反民ヲ戡定スルニ足ルト爲スナリ

(世) 後チ幾モク爵紳ノルス一議案ヲ英國議院ニ提出シ之ヲ名ケテ調和動議ト曰フ即チ其按ニ曰ク何レハ新疆ト雖凡各々其分ニ應シテ護

疆ハ公費ヲ負擔シ兼テ又タ英王及ヒ英國議院ハ是認不可キ費額ヲ出シテ各其政府ヲ維持セハ英國政府ハ復タ之ニ課税スルヲ爲サス當之ヲシテ通商上ノ條規ニ從ハシムルノミナリト之ヲ要スルニ發議ノ本旨ハ英國ヲ結合シテ米國ヲ分裂スルニ在リ然レモ疆民公會ミナ之ヲ斥ク當時公會ヲヒラゲルヒアニ開ク英國議院ニ於テモ米國ノ爲ニ計ル者ハ亦ミナ之ヲ嘲テ效ナキモノトセリ蓋シ疆民ノ辯論スル所ノモノハ課税ノ方法如何ニ在ラスシテ其權利如何

ニ在レハナリ

(其) 二月ニ至リ將軍ゲーヂ一隊ノ兵ヲサレムニ遣リ以テ其巨炮ヲ奪ハシム兵至ルル巨炮已ニ其處ニ在ラス乃チ師ヲ班ス一人ノ死傷ナシ四月ニ及テ更ニ參將スミス及ヒ都督ピットカイルンヲシテ一隊ノ兵ヲ率ヒ夜行シテ竊ニコルドニ至リ其軍需ヲ奪ハシム而シテ竟ニ發覺セラル此月十九日ノ昧爽レキシントンヲ過ルル府兵七十餘人被堅執銃シテ郊原ニ在リ都督ピットカイルン驅セテ其處ニ至リ疾聲呼

テ曰ク汝チ叛逆ノ徒開散セヨ開散セヨト府兵從ハス因テ其短銃ヲ放チ士卒ニ令レテ發砲セシム米人死スルモノ八人傷ヲ負フ者マタ甚タ多シ是ヨリ慘鬪數年ニ及ヒ終ニ米國ノ獨立ヲ確定スルニ至ル

(苗) 既シテ英軍レキシントンノ勇兵ヲ破リ進テニコルドニ至リ藏ムル所ノ軍需ヲ毀ツ歸路コンコルト河上ノ一橋梁ニ至ル米人之ヲ遮リ小戦アリ死傷相當ル近隣ノ府民之ヲ聞テ忽チ起リ縱横亂撃シ追テレキシントンニ至ル時

ニ英軍援兵ノ至ルニ會ス相率テボストンニ退
ク死スルモノ六十五人傷ヲ負フモノ百八十人
米兵死者五十人負傷スルモノ三十四人

(其) レキシントンノ一戰ヲ以テ開戰ノ號令ト
爲シ堡壘火藥局及ヒ軍器廠ノ如キ全疆到ル處
立口ニ之カ備ヲ為ス常備兵二萬餘人ヲボスト
ンノ近傍ニ屯集セシム幾モナク參將ブットナ
ム〔原〕後チ將ト爲ル大兵ヲ率テコンチクツトヨリ
來リ兵負大ニ加ハル遂ニ之ヲ以テ英軍ヲボス
トンノ半島内ニ封鎖スルニ至ル

(其) 參將エザン、アルレン及ヒ參將ハ子ヂクト

アルノルドヲシテ兵ヲ督シテチコンテラゴニ
向ハシメ參將ワールンヲシテ更ニ一隊ノ兵ヲ
帥テクロウン、ポイントニ至ラシム是ニ於テ遂
ニ其二所ノ要塞ヲ安固ナラシムルヲ得タリ

(其) 曩ニレキシントンノ戰アルニ當テ會マツ
サキセツツノ州會議ヲ開ク乃チ之ヲ英國ニ報
ス其意蓋シ曲英兵ニ在ルヲ證明セント欲スル
ナリ其自ラ英王ニ忠誠ナルヲ公告スルモ誓テ
英國内閣ノ苛虐ニ從ハサルヲ明言セリ且ツ之

ニ一語ヲ添ヘテ曰ク吾儕是非ヲ天ニ訴ヘ決然
自由ヲ得ルニアラサレハ復カ生ヲ欲セサルナ
リト

(共) 五月ヲ以テ第二ノ共同公會ヲヒラゲルヒ
アニ開キ其結合ヲ名ケテ聯疆ト曰フ衆議恭順
ヲ主トシ英王ノ幸福ヲ祈リ併セテ天神ノ冥助
ヲ籍リテ其疾苦ヲ除キ公憲ヲ約定シテ彼我ノ
調和ヲ復セントス

(共) 五月ノ末ニ至リ英軍ノ援兵ボストンニ至
ル其數甚タ衆シ參將ホーボルトゴイン及ビクリ

ントンノ帥ユル所ナリ是ミナ嚮ニ英佛兵ヲ構
フノ日武名顯赫ノ勇將ナリ已ニシテ軍律ヲ公
告スト雖モ猶ホ調和ノ望ナキニアラス蓋シ參
將ゲイヂ英王ニ代リ衆ニ告テ曰クマツサキセ
ツツ州中烈士ノ首領タルジョンハンノツク及
ヒサミツルアダムスハ二人ヲ除クハ外苟モ歸
順ハ心アル者ハ其罪ヲ赦ス可シトハンノツク
ハ當時開議セル共同公會ノ議長タリ
(三) 未人己ニ意ヲ決シボストン屯在ノ英軍ヲ
惱マシ以テ之ヲ逐ハント欲ス乃チ參將フレス

コソトヲシテ兵一千ヲ帥ヒ六月十六日ヲ以テ
チャーレストウンノブンケル丘ニ胸壁ヲ築カ
シム其静寂迅速ナル黎明ニ迄テ工幾ント成ル
モ敵兵知ルナシ而シテ天已ニ明ケ英軍戦艦ヨ
リ砲ヲ放チ之ヲ攻ム午前ニ至リ援兵五百人米
營ニ至ル

(世) 六月十七日時將ニ晌午ナラントス參將ホ
一兵三千ヲ督シテ來リ攻ム米軍砲撃ノ激烈ナ
ル英兵一時潰散ス然レモ米軍彈藥終ニ盡キ已
ムヲ得スシテ退クニ至ル英兵死傷千五十四人

米軍死傷四百五十三人殊ニ其惜ム可キハ都督
ワルレンノ戦死ナリワルレンハ慷慨自ラ奮テ
從軍セル者ナリ英兵進テチャーレストウンヲ
燬ク全都四百余屋ミナ灰燼ニ属ス而シテ此暴
擧タル英兵ニ利スル所ナクシテ却テ米人ヲシ
テ益激昂セシメタルノミ

(世) 公會議ヲ決シテ守防ヲ嚴ニシ更ニ書ヲ英
王ニ上リ且ツ大英及ヒ加拿陀ノ人民ニ向テ擧
兵ノ理由ヲ陳告シ大ニ聯疆ノ合兵ヲ編制ス是
ニ於テ適任ノ元帥ナカル可カラズ衆議幸ニジ

ジイダ、ワシントンヲ推シテ其職ニ任スワシント
 トンハビルダニア撰擧ノ公會議員ニシテ嚮ニ
 佛兵ト戦ヒ智勇ヲ以テ著ハル天稟大度ニシテ
 智勇堅忍天下比ナシト稱ス之ニ加フルニ明敏
 能ク事ヲ斷シ品性高尚ニシテ心志潔白ナリ時
 人望ヲ屬ス最モ厚シ既ニシテ其職ニ從事シ七
 月二日ヲ以テケンブリツチニ至リ本營ヲ定ム
 (世) 公會已ニ元帥ヲ撰任シ尋テ四名ノ都督及
 ヒ八人ノ參將ヲ任定シ以テ聯疆ノ合兵ヲ督セ
 シムアルテマス、ツードチャールスリーヒリツ

プ、スチコレル及ヒイスレール、プツトナム之カ
 都督タリヒス、ボンロイリチャード、モントゴメ
 リーダビッド、ウースタルウイリアムヘリスジ
 ヨセフ、スペインセルジョン、トーマスジョン、ソ
 バン及ビナタニール、ダリーン之カ參將タリ而
 シテホラツチヨ、ダートス參將兼副都督ニ任ス
 (世) カナダヲ略シ以テ邊境ヲ衛ルノ策ヲ立テ
 參將スチユレル及ヒモントゴメリーヲシテ兵
 ヲ帥テ其地ヲ征ヤシム然ルニスチユレル土蕃
 ト議スル所アリテ歸リ來リ竟ニ病テ復タ其軍

ニ加ハルヲ得スモントゴメリー乃テ之ヲ督ス
チヤングリー及ヒセント・ジョンズノ砲臺ヲ拔
キ進テモントリールヲ下シ更ニ長驅シテクイ
ビツクニ至ル

(世五) 參將アルノルドヲシテ兵一千餘人ヲ督シ
ケングリツチヲ發シテケンビツク及ヒ曠原ヲ
經過シ以テクイビツクニ闖入セシム進軍難苦
ヲ極メ十一月ヲ以テ其地ニ達シモントゴメリ
ーニ合ス相共ニ奮テ之ヲ襲撃シ敢然之ヲ拔カ
ント欲スト雖氏竟ニ克タス死傷四百餘人參將

モントゴメリー之ニ死ス次季ニ至リ米軍咸ク
カナダヲ去ル

(世六) ビルチニアノ居民早ニ率先シテ英軍ニ抗
ス而シテ北邊ノ戰方ニ斯クノ如クナルニ當テ、
爵紳ドンモールト闘フドンモールハ英王ノ忠
臣ニシテ知疆ノ職ニ在リ施治苛虐ヲ極メ疆民
ヲ壓服セント欲シ却テ之ヲシテ益激昂セシム
竟ニ家眷ヲ携ヘテ難ヲ兵艦ニ避ケ更ニ數隊ノ
兵ヲ上陸セシメ疆民ト戰ヒ一時劫掠ヲ縱ニス
ノルフォルクノ軍需ヲ毀チ若クハ之ヲ奪ヒ其

府城ヲ燬ク實ニ千七百七十六年一月一日ナリ
然レモ軍終ニ敗レテ復ヒ歸艦ス

(其) 南北兩カロリナニ於テモ亦タ然リ居民ソ
ノ知疆ノ英王ニ忠誠ナルヲ憎ミ之ヲ逐フ千七
百七十五年ノ末ニ至リ全疆ミナ舊時ノ政體ヲ
解クト雖モ其心猶ホ大英ニ黨スルモノ多シ之
ヲ勤王黨ト名ク或ハ其數多ク其執熾ナルアリ
或ハ定見アリテ竊ニ沈着スルアリ或ハ奔走シ
テ叛勢ヲ挫カントスルアリ而シテ十月ニ及テ
將軍ゲーヂ海ニ航シテ英國ニ歸リ參將ウイリ

アマ、ホー英軍ヲ督ス

(其) 千七百七十六年ポストン屯在ノ米軍大約
一萬五千人アリ然ルニ曾テ訓練ヲ經タルナ
キノミナラス彈藥戎服共ニ乏シクシテ精良ノ
軍器熟達ノ士官ナシ是ヲ以テ千七百七十五年
ノ夏ヨリ秋ニ至リ活潑ノ戰ヲ為ス能ハズ冬末
ニ及テ將軍ワレントン斷然意ヲ決シポストン
屯駐ノ英兵ヲ逐ハント欲シ三月二日大ニ之ヲ
砲撃シ以テ敵ヲ誘フ且ツ四日ノ夜急ニ砲臺ヲ
ドルチエチエスター、ハイツニ築ク是レ實ニ米

軍要害ノ地ニシテ以テ港中ノ英艦ヲ惱マス可
ク以テ府内ノ英兵ヲ困シム可キナリ
(芟) 將軍ホー之ヲ襲撃セント欲シ反撃ニ遭フ
テ遂ニ果タサズ而シテ砲臺ノ守備益嚴ナリ是
ニ於テ進退維レ谷マリ終ニボストンヲ去ル將
軍ワシントン三月十七日ヲ以テ踴躍府内ニ入
ル府民抃喜之ヲ迎ヘ以テ救主ト爲ス蓋シ是ヨ
リ先キ英兵ノ抑制ニ苦シム甚シキヲ以テナリ
(罍) 六月二十八日ペートル、パークル水師ヲ將
テソリバンス、イストランドノ城堡ヲ襲撃シ以テ

ソウスカロリナノチャールレストウンヲ抜カン
ト欲ス參將モートルトリー之ヲ守リ應撃太タカ
ム遂ニ英兵ヲ拒却シ大ニ其戰艦ヲ破ル英兵死
傷二百餘人は是ヨリ此城ヲ名ケテモートルトリー城
ト曰フ以テ守將モートルトリーノ功ヲ稱スルナリ
(聖) グンケル丘ノ戰報英國ニ達スルヤ舉國愕
然タリ是ヨリ先キ内閣ニ黨スル者相語ル毎ニ
米軍ヲ侮慢スルヲ常トセリト雖氏令ヤ決死戈
ヲ交ユルニ及テ勝敗未タ知ル可カラス是ニ於
テ爵紳カサムボルク及ヒフオツキス政略ヲ更

メント欲シテ遂ニ果サス廟議一決シテ飽マテ
疆民ヲ戡定セント欲シ乃チ國會ノ公認ヲ得テ
ヘツスノ伯爵及ヒブリンスウツキノ公爵ニ請
ヒ其部兵一萬六千人ヲ傭役シ全ク疆民ト貿易
交通スルヲ禁スルノミナラス大洋ニ在テ縦ニ
其財貨ヲ掠奪スルヲ許スニ至レリ是時ニ當テ
征軍ノ總員己ニ五萬許ニ達ス

(聖) 是ヨリ先キ米人ノ求ムル所固ヨリ一國ノ
獨立ヲ全フシ兼テ立憲ノ自由ヲ得ント欲スル
在リタリト雖モ英國政府ノ施ス所顯然敵意ヲ

表スルニ及テ舉疆激昂シテ人ミナ本國ニ臣事
スルノ義絆ヲ絶タント欲シ民心遽ニ一變ス是
レ亦タトーマス、パインノ續々慷慨ノ論文ヲ草
シ世ニ公ニスルニ同感論ノ名ヲ以テシ獨立ヲ
公告スルノ正當ニシテ且ツ其避ク可カラサル
所以ヲ證明セシニ職由セスンハアラス六月七
日ビルジニアノ議負リチャード、ヘンリー、リ
公會ニ於テ一動議ヲ提出シ疆民不羈獨立ノ檄
文ヲ發セントス乃チジエツフエルソンアダム
スフランクリンシエルマン及ヒライビンダス

トシテ以テ之カ委員ト為シ檄文ヲ草ヤシム已
ニシテ稿成リ討議ヲ盡シ满堂一致シテ終ニ之
ヲ可決ス是レ實ニ千七百七十六年七月四日ナ
リ史編永ク此日ヲ以テ記念ト爲ス

(聖) 檄文ノ結末ニ曰ク是ヲ以テ吾儕北亞聯邦
ハ代議士公廳ニ會同シ宇内ノ輿論ニ訴ヘテ其
志向ノ正否ヲ判定シ即チ聯疆良民ノ名ト權ト
ヲ以テ肅然公告ス曰ク今ヤ聯疆不羈獨立ノ國
タリ理亦タ然ラサルヲ得ス曰ク聯疆已ニ英王
ニ臣事スルノ義ナシ曰ク彼我政治上ノ關係已

ニ全ク解ケタリ理マタ當ニ然ラサルヲ得ス曰
ク聯疆已ニ不羈獨立ノ國タルヲ以テ和戰ヲ決
シ條約ヲ締ヒ貿易ヲ行フハミナラズ凡ソ獨立
國ハ為ス可キ所ヲ行フハ全權アリトス故ニ深
ク信シテ神明ハ冥助ニ頼リ以テ此檄文ヲ實行
セント欲シ乃チ吾儕相誓テ共ニ其生命財産及
ヒ榮譽ヲ擲ツモノナリト

第四章

承前革命ノ亂

ブルークリ

シホワイトプライントレン
トンプリンセトンベンニ

トングランデワインゼルマ
ントウン及ヒスチールウオ
リターノ戦 サラトガラ下
ク モンモリス ロード、イ
スランドカムデンカウ、ペン
スグイルフオールド及ヒエウ
トウ、スプリングスノ戦 ヨ
ルク、トウンノ投降 獨立ノ
公認 即チ紀元後千七百七
十六年ヨリ千七百八十三年

ニ至ル

- (一) ウイリアム、ホー未タボストンヲ去ラサル
ノ前將軍ワシントン竊ニ以為ラクニウヨーク
ノ府城ハ中央ノ要地タリ英兵之ニ據ラント欲
スルヲ必セリト乃チケンブリッチ屯在ノ參將
リリーヲ遣テロングイスランド及ヒニウ、ヨーク
ヲ守防セシムホー已ニボストンヲ去ルニ及テ
ワシントン即チ兵ヲ帥ヒ尋テ發ス
- (二) ウイリアム、ホーボストンヲ去ルノ後チ海
ニ航シ兵ヲ率テハリフハツキスニ至リ其地ニ

在ル二月余更ニ進テニウ、ヨークニ向フ六月ニ
及テサンデー、フークノ近傍ニ達ス後チ幾モナ
ク其兄弟水師提督爵紳ホー援兵ヲ將テ英國ヨ
リ至リ之ニ合ス參將クリントンマタ兵ヲ督シ
テ南方ヨリ歸ル是時ニ當テ英兵ノ數ニ萬四千
ヲ過ク人或ハ之ヲ以テ三萬ニ及ヘリトスワシ
ントン僅ニ一萬千乃至一萬二千ノ小兵ヲ以テ
敢テ此大軍ニ抗ラントスルナリ之ニ加フルニ
其兵多クハ不熟ノ郷勇ノミ

(三) 英王爵紳ホーニ委任スルニ戰ヲ開クノ前

先ツ和議ヲ提出スルヲ以テス是ヲ以テホーノ
此地ニ至ルヤ書ヲ發シテ忠誠ノ知疆ニ傳諭シ
以テ事ヲ議ル而シテ此書終ニワシントンノ掌
中ニ墜ツワシントン即チ之ヲ公會ノ議長ニ傳
送ス之ヲ要スルニ其條款タル復ヒ英王ニ臣事
シテカヲ平和ノ回復ニ盡ス者ハ其罪ヲ赦シ且
ツ恩顧ヲ賜フハシト曰フニ外ナラス故ニ一人
ノ之ヲ顧ルモノナシ蓋シ米人已ニ執銃被堅シ
テ其正當ノ權利ヲ保安セントシ以為ラク吾儕
固ヨリ罪ナキヲ知ル何ソ赦免ヲ求ムルヲ為サ

ント而シテ爵紳ホー將軍ワシントンニ向テ私書ヲ發シ將軍ホーマタワシントン以下諸士ニ向テ私信ヲ寄スワシントン其公文ニ屬セサルヲ以テ悉ク之ヲ忤ク

(四) 既ニシテ彼我戰備ヲ修ムル愈急ナリ終ニ八月二十七日ヲ以テ戈ヲフルークリン及ヒフレートヒツシノ間ニ交ユ參將プットナム及ヒソリバン米軍ヲ督スヘツスノ兵前ニ在リ英軍後ニ在リ敵砲前後齊シク發シテ米軍盡ク敗ル其自ラ表示スル所ニ從ハハ兵ヲ亡フ一千余人

之ヲ英兵ノ説ク所ニ徴スルニ其數三千人ノ上ニ出ツ米將ソリハンスタイリク及ヒウートハールル竟ニ俘ト爲ル而シテ敵兵死スルモノ僅ニ三四百人ニ過キス二十九日ノ夜戰焰正ニ熾ナルニ方テ將軍ワシントン河ヲ濟リニウヨークヨリゲルークリンニ至ル恰モ好シ霧深フシテ咫尺ヲ辨ヤス其退軍ノ靜肅ナル英兵僅ニ一英里四分一ノ地ニ屯營スルモ之ヲ悟ラス米軍已ニ遠ク去リ其追躡ス可カラサルニ至テ始テ之ヲ覺知セリト云フ

五) ワシントン部兵若干ヲ將テホワイト、プラ
インスニ退キ十月二十八日ヲ以テ戈ヲ交ユ死
スル者數百人後チ幾モナク將軍ホーホドソン
河畔ノワシントン城ヲ拔ク城兵二千八百餘人
參將マガウノ督スル所ナリ米軍ノ鋒勢ヲ挫ク
モノ未タ曾テ之ヨリ大ナルハナシ是時ニ當テ
英兵已ニニウ、ヨークロング、イスラント及ビス
ターテン、イスラントノ府城ヲ占有ス

(六) ワシントンノ退軍スルヤボドソン河ヲ濟
リニウ、ゼルセーヲ過キ更ニニウ、アークニウ、ブ

リンスウツキプリンストン及ヒトレントンヲ
經テデラワル河ヲ涉リ終ニペンシルバンアノ
岸頭ニ至ル爵紳コロンワリス英兵ヲ帥テ尋テ
至リ追撃甚タ急ナリ英兵勝ニ乘シ冬營ヲ張ル
(七) 是時ニ當テ米軍ノ勢狀甚ク衰ヘ死傷相踵
キ或ハ俘ト為リ或ハ免役ト為リテ兵數大ニ減
ス之ニ加フルニ參將チャールレスリーバスケ
ンリツチニ在リ襲撃ニ遭テ虜ト爲リ英兵ロード、
イスラントヲ奪フワシントンデラワル河ノ西
岸ニ在リ其帥ユル所ノ兵數總計僅ニ三千許概

子既足薄衣ナリ參將ホー此時ヲ機トシ告諭ヲ發シテ曰ク歸順以テ王威ニ服スル者ハ盡ク其罪ヲ赦ス可シト是ニ於テ米軍ヲ去テ英兵ニ投スル者甚タ多シ

(八) ワレントン一舉敵ヲ破リ以テ國運ノ衰頽ヲ挽回スルソ急務ナルヲ知り十二月廿五日ノ夜ヲ以テデラワル河ヲ濟リ敵兵ヲトレントンニ襲撃シ全軍ハツスノ兵按日耳曼ヨリ一千餘人ヲ獲タリ其將參軍ラール之ニ死ス更ニ進テプリンストンニ至リ英兵ノ一分隊ヲ破ル實ニ

一千七百七十年一月三日ナリ其死スルモノ百餘人餘衆遁レテ州學ニ入り力窮テ竟ニ降ル參將ビルゲニアノメルセル之ニ死スワレントンノ果斷以テ米人ノ衰氣ヲ喚起シ以テ敵兵ノ膽ヲ奪フ

(九) 千七百七十六年ノ末ニ至リ國運衰頽ヲ極ム是時ニ當テ公會自若トシテ動カス大ニワレントンノ權カヲ増シ之ニ授クルニ無上ノ威權ヲ以テシ三年間即チ開戰中募兵ノ準備ヲ為スノミナラス使テ歐洲ニ遣シ諸國ニ遊說シテ其

愛助ヲ求メ悲憤慷慨ノ書ヲ寄ヤテ其民心ヲ感動セシム千七百七十七年ニ至リ十三州會盟シテ聯結條規ヲ制定ス

(十) 同年三月將軍ホー一隊ノ兵ヲ分遣シテホドソンヲ湖リピーキスキルノ軍需ヲ破毀セシム四月ニ至リ參軍トライオン更ニ分隊二千入ヲ帥テコン子クチクットノダンブリニ進向シ其軍需ヲ壞リ府城ヲ燬クコン子クチクットノ郷勇英兵ノ歸路ヲ要シ一二小戰アリ米將ウースタル之ニ死ス

(十一) 此春役ヲ起スニ當リ米軍僅ニ七千餘人將軍ホーワシントンニ迫リ戰ヲ挑ムワシントン應セス是ニ於テニウゼルセーヲ去リ兵ヲ収メテスターランイスランドニ至ル後チ船ヲ擧シ兵負一萬六千人ヲ搭載シテチエサピーキ灣ニ入り自ラ之ヲ督シテエルク河畔ニ上陸ス以テヒラデルヒアヲ占取セント欲スルナリワシントン已ニ之ヲ悟リ兵ヲ督シテ進向シ以テ之ヲ拒ント欲ス十一月十一日ブランデワイン河畔ニ戰フ米軍奮闘之ニ抗ルト雖氏英兵精練ニシ

テ且ツ衆寡敵セスカ窮テ竟ニ敗ル死傷若クハ
 俘ト為ル者一千餘人はヨリ先キ侯爵フフエツト
 幼若ニシテ自ラ好テ米軍ニ入り總兵ノ職ニ任
 ス此戰ニ臨ミ傷ヲ負フ英兵死スルモノ五百人

許

(註) 此戰アリテヨリ未タ幾ナラス將軍ホーヒ
 ラデルヒアヲ拔キ中軍ヲセルマントウンニ置
 ク其地ヒラデルヒアヲ距ル七英里ナリ是時ニ
 當テホー大西洋ト聯絡ヲ通セント欲セハ勢必
 スデラワル河畔ノ諸塞ヲ抜カサルヲ得ス而シ

テホー遂ニ其意ヲ達スルヲ得タリト雖モ英兵
 死スルモノ三四百人ニ至ル此時敵兵分派シテ
 各地ニ散在スワシントン其虛ニ乘シ十月四日
 フ以テゼルマントウンノ英兵ヲ襲ヒ軍敗ル死
 傷若クハ俘ト為ルモノ千二百餘人敵兵死スル
 モノ僅ニ其半ニ過キス是ヨリ英軍冬營ヲヒラ
 デルヒアニ布ク

(註) 中央諸州ニ於テ敗戰相踵ク其レ斯クノ如
 シ是時ニ當テ北部諸州マタ大敗アリ此年早春
 英國ニ於テ議已ニ決シ加拿陀ヲ經テ中央諸州

ヲ伐タントス六月ニ至リ將軍ボルゴン英兵七
 千人其他加人及ヒ土蕃若干ヲ帥ヒチャンプラ
 イン湖ヲ度リチコンデラゴヲ圍ム米將シント
 クライル守兵ヲ率テ之ヲ去ル將軍ボルゴン進
 テスキースボロウ(原今ノホワイ)ハールナリニ至リ米軍所
 屬ノ小船并ニ軍需ヲ破壊シ更ニ兵ヲ帥テホド
 ソン河畔ノエドワード城ニ向フ

(五) ボルゴン其地ニ在テ參軍ボウムヲ將トシ
 テ英兵五百土蕃百人ヲ分遣シバルモン
 トノベ
 ンニントニ至リ軍需ヲ毀タシム八月十六日

參軍スタークバルモント及ヒニウ、ハンプレエ
 アノ郷勇八百餘人ヲ以テ之ヲ破ル敵兵大半或
 ハ殺サレ或ハ俘ト為ル明日參軍ブレイマン日
 兵五百ヲ帥テ來リ援フ參將スターク復タ之ヲ
 破ル英軍前後二回ノ敗戦ヲ以テ兵ヲ喪フ六百
 人許是ヨリ先キ參軍シント、レीडル英兵ヲ將
 テ參將ヘルキメルトモハウーク河畔ニ戦ヒ大
 ニ之ヲ破ル

(五) 既ニシテ英將ボルゴン兵ヲ收メ軍需ヲ整
 ヘホドソン河ヲ濟リテサラトガニ劄營ス是ヨ

西史傳 卷之六 百七
リ先キ米將ゲートス北師ノ提督タリ是時ニ當
テ其兵ヲ聚團シ進テ敵ヲ撃ツ九月十九日兩軍
スチールウオースターニ戰ヒ勝敗決ヤス米軍三
百乃至四百人ヲ亡フ英兵死スルモノ六百人許
後チ幾モナク英兵陝隘ニ入り進退為ス所ヲ知
ラス右ニハホドソンノ大河アリ左ニハ經過ス
可カラサルノ密林アリ而シテ米軍前後之ヲ要
シ其前ニ在ルモノ一萬三千人ニ至ル
(其) ボルゴシコノ危急ニ迫リ一舉以テ米軍ヲ
逐ハント欲シ兵千五百人ヲ遣テ其左翼ヲ窺ハ

シム是ニ於テ激戰再ビ起ル英兵力戰シ其將フ
ラツセル之ニ死ス米將リンコルン及ヒアルノ
ルド傷ヲ負フ既ニシテボルゴン糧食幾ント盡
キ兵卒己ニ疲シ其勢益危シ乃チ將士ヲ會シテ
進退ヲ諮フ衆議聲ヲ齊フシテ竟ニ投降スルニ
決シ十月十七日ヲ以テ疾傷ノ徒ヲ除キ全軍五
七千百五十二人サラトガニ於テ米將ゲートス
降ニル

(其) 米人ボルゴンノ降ルヲ聞キ抃喜相賀シ深
ク自ラ信シテ竊ニ獨立ノ成ルヲ期ス千七百七

十六年公會ニ於テ學士フランクリンシリアス
デーソン及ヒアルズル、リトヲ佛國ニ遣シ援ヲ求
ム佛廷固ヨリ米人ヲ援クルノ意アリト雖氏敢
テ之ヲ告ケスボルコンノ降ルヲ聞キ終ニ之ヲ
諾シ千七百七十八年二月ヲ以テ巴里ニ盟ヒ和
親通商ヲ約ス米人之ヲ聞キ欣喜措カス
(大) 千七百七十八年英國内閣諸臣北師ノ敗ヲ
聞キテヨリ米人ニ對スルノ處置自ラ温和ヲ加
フ而シテ又タ米佛ノ聯盟ヲ聞キ恐懼益甚シニ
月ニ至リ爵紳ノルス米國ヲ撫慰スルノ議按ヲ

英國議院ニ提出ス衆議之ヲ可トシ數名ノ委負
ヲ撰任ス委負乃チ六月ヲ以テ米國ニ至リ和議
ヲ憑ム若シ之ヲシテ數年前ニ發セシメハ遂ニ
其意ヲ達スルモ未タ知ル可カラスト雖凡今ヤ
時期已ニ去ル公會何ソ之ヲ顧ミルノ意アラン
ヤ深ク自ラ信シテ素志ノ成ルヲ期ス故ニ其獨
立ヲ公認スルニアラザルヨリハ何等ノ發議ア
ルモ復タ耳ヲ傾クルナシ
(先) 千七百七十八年役ヲ起スニ當リ英將ホー
去テ英國ニ歸リ將軍ヘンリー、クリントン其任

ヲ繼キ之カ元帥タリ是時ニ當テ英軍ニウ、ヨ
クノ府内ニ聚團セントス六月ヲ以テヒラデル
ビアヲ發シデラワル河ヲ濟ル將軍ワシントン
之ヲ着破シ途ニ之ヲ要セントス六月廿八日兩
軍ニウ、ゼルセーノモンモウス法衙ニ接近シテ
戈ヲ交ユ米軍死傷二百三十餘人英兵死傷四百
人許此日炎熱焦クカ如ク兩軍大ニ苦ミ死者隨
テ多キヲ致シタルヲ以テ其事特ニ著ハル戰後
英兵ニウ、ヨークニ退キ空シク其冬ヲ送ル

(三) 七月伯爵エスタイン佛國ノ艦隊大小十六

艘ヲ帥テデラワル河口ニ至リ謀ヲ合セ以テニ
ウ、ポルト駐在ノ英兵ヲ襲ヒ軍敗ル八月二十九
日將軍ピゴツト英師ヲ督シ參將ソリバン米軍
ヲ帥ヒロード、イスランドニ戰フ交戈須臾ニシ
テ息ミタリト雖モ其激烈ナル彼我兵ヲ亡フニ
百餘人ニ至ル明日米軍其地ヲ去ル秋末ニ至ル
マテ佛國ノ艦隊曾テ一場ノ勝戰ヲ得ルナク終
ニ西印度ニ航ス時ニ將軍ケリントン一團ノ征
軍ヲ遣テゼオルギアヲ伐ツ十二月下浣英兵米
軍ヲ破リサバンナヲ略ス

(世) 千七百七十八年ノ末ニ至リ公會將軍リン
 コルンヲ以テ南師ノ提督タラシム千七百七十
 九年首戰ノ地北方ヨリ南部ニ移リ其勝敗判然
 タラスト雖氏出征相踵キ精勇共ニ著ハル然リ
 而シテ米軍漸ク衰フ蓋シ紙幣ノ價格益低下セ
 ルノミナラス佛國ノ艦隊連戰盡ク敗レ其曾テ
 屬望スル所終ニ畫餅ニ歸シタルヲ以テナリ

(世) 此冬即チニウヨーク屯在ノジョーヂ、コリ
 ール及ヒ將軍マツトヘウスヲビルヂニアニ遣
 リ以テ劫掠ヲ縱ニセシムコリール及ヒマツト

ヘウスホルツモースニ上陸シ屋宇ヲ毀チ貨財
 ヲ壞ル後マタ將軍トライオンヲ將トシ一團ノ
 兵ヲコン子クチットノ海岸ニ分遣シニウ、ハー
 プンノ民財ヲ奪ヒフハイアアフィールド及ビノ
 ルウオークヲ燬クシム

(世) 英兵己ニホドソン河畔ノ峻丘ストンニ
 ホイントヲ略シ壘ヲ築キ之ニ據ル七月將軍ワ
 インヲシテ兵ヲ帥ヒ之ヲ征セシムワイン奮闘
 之ヲ下メ將軍ロベルマタ兵ヲ帥テパノヴスコ
 ヲト屯營ノ英兵ヲ撃チ遂ニ克タス將軍ソリバ

ン土蕃ノ六部ヲ伐ツ村落四十ヲ毀テ蓄穀菓樹ヲ壞テ還ル兵ヲ亡フ甚タ鮮シ

(苗) 將軍リンコルン參將アツシヲシテ兵千五百ヲ帥テサバンナ河ヲ濟リ以テ英兵ヲ撃タシムアツシブリアル河ニ至リ英將プレボストノ襲フ所ト為リ軍敗ル兵ヲ亡フ三百人許或ハ殺サレ或ハ俘ト為ルプレボスト勝ニ乘シチャールストウンヲ攻ム而シテ遂ニ抜ク能ハス是時ニ當テ伯爵エスタイン水師ヲ將テ西印度ヨリ來リ米軍ト合從シテプレボスト帥ユル所ノ英

兵ヲサバンナニ撃テ利アラズ兵ヲ喪フ一千餘人伯爵ポラスキ之ニ死スポラスキハハ波蘭ノ武官ニシテ米國ニ仕フル者ナリ後チ畿モナク佛國ノ艦隊終ニ米國ノ海岸ヲ去ル
(註) 千七百八十年ソウスカロリナ首戦ノ地ト為ルヘンリ、クリントン大兵ヲ帥テニウ、ヨークヲ發シ海ニ航シテサバンナニ至ル時維レ一月ナリ四月ニ至リ更ニ進テチャールストウンヲ圍ミ一撃以テ將ニ之ヲ拔ントス五月十七日守將リンコルン竟ニ降ル城兵府民ヲ合セ俘ト

為ルモノ二千五百人許已ニシテ將軍クリント
ン兵四千餘人ヲ留メ爵紳コロソリスヲ以テ
之カ將帥ト為シ南方ノ役ニ從事セシム而シテ
自ラニウヨークニ還リ諭告ヲ發シカロリナノ
州民ヲ説テ王師ニ歸服セシメント欲ス是ニ於
テ新ニ其軍ニ投スル者少カラズト雖州民猶
ホ不羈獨立ノ精神ヲ失ハサルモノ其半ニ過ク
(其) 是時ニ當テ英兵チャールレストウンヲ占取
シ更ニ内地ヲ戡定セト欲ス乃チ爵紳ロウドン
ヲシテ大軍ヲ督シテカムデンニ向ハシム小戰

數次或ハ參軍タルレトシ騎隊ヲ帥テ米將ブツ
フホルドヲ破リ或ハ米將ソントル偉功ヲ箸ハ
ス
(其) 嚮ニ將軍ダートスリンコルンニ代テ南軍
ノ元帥タリ七月下浣ソウスカロリナノ米營ニ
至リ兵ヲ聚メ以テ英軍ノ進撃ニ抗ラントス爵
紳コルンワリス之ヲ聞テカムデンニ赴キ爵紳
ロウドンヲ援ク八月十六日兩軍戈ヲ交ヘ米軍
竟ニ敗ル死者七百乃至八百人男爵カルブ之ニ
死スカルブハ普國ノ縉紳ニシテ米國ニ任ヘ副

將ノ任ヲ負フ者ナリ而シテ英兵死スルモノ其
 數米軍ノ半ニ及フ此時米軍多クハ郷勇ヨリ成
 ル故ニ第一發ノ砲撃ヲ以テ先ツ潰散シ復タ救
 ムルヲ得ス是ヲ以テ將軍ゲートス殘兵ヲ率テ
 ノルスカロリナノハイルスボローニ退ク而シ
 テカムデン交戦ノ後チ爵紳コロソリス一時
 兵ヲ息ム

(其) 七月候爵テル子一佛國ノ舟師大艦七隻小
 船若干ヲ督シ伯爵ロチヤンボー陸兵六千ヲ帥
 テロード、イスラントニ至ル是ニ於テ米軍更ニ

振起スルヲ得タリ然ルニ佛艦盡ク遽ニ其國ニ
 歸リ復タ海援ノ望ム可キナシ其陸兵ニ至テハ
 猶ホ此地ニ留マリテ米軍ト力ヲ協セ終ニ英兵
 ヲ服ス

(其) 此年將軍マ子ガイクト、アルノルド奸謀ア
 リホドソン河畔ウエスト、ポイントノ要塞ヲ敵
 手ニ授ケントス是レ此役ニ於テ背詐ノ持ニ甚
 シキモノナリアルノルド嘗テクイビツキヲ圍
 テ大ニ功アリ又タチャラトガニ戰テ敵ヲ破リ重
 傷ヲ負フ後チヒラデルヒアノ將帥ニ任シ其地

ニ在ルノ日部下ヲ虐ス酷シ終ニ軍部審廷ノ紀
ス所ト爲リ責將ヲ受クアルノルド念恨措カス
竊ニ之カ讐ヲ報ヒント欲ス然リ而シテ將軍ヲ
シントン猶ホ之ヲ棄テス其勇武ニシテ且ツ前
功アルヲ思ヒ自ラ請フテ之ヲウエスト、ボイン
トノ守將ト爲ス固ヨリ其異圖アルヲ知ラサレ
ハナリアアルノルド幾モナク英將クリントント
議リ其地ヲ舉テ之ヲ付與セントス然ルニ幸ニ
シテ事竟ニ發露シ禍ヲ未然ニ防クヲ得タリ
(三) 英將アンドル事ニ與リ奔走ス不幸ニシテ

擒ヘラレ軍律ニ於テ間牒ヲ以テ其罪ヲ論シ死
刑ニ處セラルアントル少壯ニシテ勇アリ人々
ナ之ヲ敬愛ス故ニ彼我共ニ深ク其末路ヲ惜ミ
タリト云フアルノボルド脱シテ敵營ニ投シ英
軍ノ副將ニ任ス以テ背反ノ功ヲ賞スルナリ
(世) 千七百八十一年ニ至リ大戰多クハ南方ニ
在リ一月叛將アルルド千五百餘人ヲ帥テ卒然
ビルジニアヲ襲ヒ海岸ノ守防ナキニ乘シ其地
ヲ奪フ少シトセス
(世) 千七百八十年ノ秋將軍グリーン米國南軍

ノ元帥ニ任ス參軍モルガン米軍ヲ督シテ參軍
タルレトシ帥ユル所ノ英兵ヲロウペンズニ破
ル之ヲグリーン職ニ就テヨリ第一回ノ交戦ト
ス英兵死スルモノ三百人虜ト爲ルモノ五百人
而シテ米軍ノ死傷僅ニ七十二人ニ過キス

(三) グリーン米軍ヲ督シコルンワリス英兵ヲ
帥ヒノルスカロリナナルグイルフォールド法衙
ノ近傍ニ相會シ三月十五日ヲ以テ兩軍戈ヲ交
ユ英兵死スルモノ四百余人遂ニ米軍ヲ破ル而
シテ米軍多クハ郷勇ヨリ成ル死スルモノ其數

大約之ニ均シ戦後將軍グリーン進テカムデン
ニ至ル時ニ爵紳ロウドン兵九百人ヲ將テ之ニ
標リ闖出シテグリーンヲ撃ツ兩軍兵ヲ亡フ二百
乃至三百人英兵遂ニ之ニ勝ツ九月ニ至リ將軍
グリーン參軍スチユアルト帥ユル所ノ英兵ヲ
エウトウ、スプリングスニ破ル敵兵死傷若クハ
俘ト爲ルモノ千餘人米軍死スルモノ五百五十
人ソウスカロリナノ役是ニ至リ幾ンド其局ヲ
結フ

(四) グイルフォールドノ戦畢ルノ後チ爵紳コロ

ンワリス進テビルヂニアニ向フ以テ將軍ヒリ
ツプ帥ユル所ノ英兵ニ合セント欲スルナリ五
月ペートルスボルグニ至リ自ラ合兵ヲ指揮ス
戦闘數次終ニ其兵ヲヨークトウン及ヒグロウ
セストルホイントノヨーク河畔ニ屯營セシメ
守備ヲ嚴ニシテ自ラ之ニ據ル

(其) 是ヨリ先キワレントンノツキスロチヤン
ホー等ノ諸將謀ヲ合セ連衝シテ英兵ヲ撃ント
欲シ未タ進撃ノ地ヲ確定セス而シテ紳紳コロ
ンソリス已ニ大兵ヲビルヂニアニ聚團スルニ

及ンテワレントン決然其兵ヲ集合シ以テ之ヲ
攻メント欲シニウヨークノ進撃ヲ罷ム蓋シ東
部及ヒ中央諸州ヲシテ軍需ヲ供給スルノ便ヲ
得サシメ兼テヘンリー、クリントンヲ瞞キ之ヲ
シテ援兵ヲコロンワリスニ遣ルヲ得サラシメ
ント欲スルナリワレントン書ヲグリーン以下
諸將ニ寄ヤ陽ニニウ、ヨークヲ攻ムルノ意ヲ示
シ故ラニクリントンヲシテ途ニ其書ヲ阻攔セ
シム之ニ加フルニワレントンノ兵ヲ動スヤ千
變萬化ソノ精練ナル遙ニクリントンニ勝ル所

アリ故ニ之ヲレテ益ニウ、ヨークノ守備ヲ顧慮
セシメ終ニコロシワリスヲ援フ能ハサラシム
是ニ於テ其策遂ニ成ル

(英) ワシントンニウ、ヨーク駐在ノクリントン

ヲレテ其警戒ヲ嚴ニセシム數十日ニ及フ而シ
テ卒然ホワイト、ブレインノ軍營ヲ發シ兵ヲ帥
テホドソン河ヲ濟リニウ、ゼルセー及ヒベンシ
ルバニアヲ疾過シテエルク河ニ至ル是レ侯爵
ラフエツト大兵ヲ帥テ據ル所ノ本營ナリ而シ
テ其軍一部ハ海路ヲ經テビルヂニアニ向ヒ餘

ハ盡ク陸行シテ其地ニ赴ク

(英) クリントン固ヨリワシントンノ進軍ヲ知

ラス其已ニ追躡ス可カラサルニ及テ始メテ之
ヲ悟レリ是ヨリ先キ叛將アルノルドビルヂニ
アヨリ還ルクリントン乃チ之ヲレテ一隊ノ精
兵ヲ帥ヒコンチククツトノニウ、ロンドンニ
進向セシムグロツトンノ一丘上ニダリスウオ
ルド城アリ發シテ遂ニ之ヲ拔キ守將レツドパー
小隊ヲ分派シテ遂ニ之ヲ拔キ守將レツドパー
ド以下城兵大半或ハ敵及ニ斃レ或ハ傷ヲ負フ

後チニウ、ロンドン竟ニ焦土ニ歸ス

(英) ワシントンチエスターニ在リ伯爵グラツ
ス佛艦二十四艘ヲ帥テチエスピーキ灣ニ至ル
ヲ聞キ大ニ喜フ後チ幾モナク水師提督グラブ
ス英艦十九艘ヲ督シテ尋テ至リ兩軍兵ヲ交ユ
佛艦之ニ勝チ遂ニ全ク灣中ノ航權ヲ占ム佛兵
一分隊上陸シテ米軍ニ合シ全軍總計一萬六千
人許ニ至ルワシントン自ラ之ヲ督シヨークト
ウンノ英兵ヲ圍ム

(英) 米軍己ニ海陸相須テ英兵ヲ圍ミ十月上浣

ヲ以テ攻戰ヲ開キ英壘ニ基ヲ奪ヒ大ニ敵勢ヲ
壓ス十一日ノ夜ヲ以テ更ニ第二ノ攻撃ヲ試ミ
大ニ敵兵ヲ破ル英軍壘崩シ砲破ル進退為ス所
ヲ知ラス十月十七日爵紳コロソリス休兵ヲ
陳出シ十九日ニ至テ竟ニ城下ノ盟ヲ為シ城兵
ヲ率テ將軍ワシントンニ降り且ツ軍需戰艦ヲ
交付ス其降ルモノ水夫ヲ合セ總計七千零七十
三人多クハ傷ヲ負ヒ兵役ニ堪ヘサル者ノミ
(早) 米人之ヲ以テ交戰ノ局ヲ結ビ遂ニ北亞聯
邦ノ獨立ヲ確定スルモノト為シ國內到ル處拊

喜相賀ス各營ニテ神ヲ拜シ恩ヲ謝スロシント
シ乃チ諭告ヲ發シ役ニ與ラサル者ト雖凡皆共
ニ拜謝ノ儀ヲ行ハシメ誠意感恩ノ意ヲ表セシ
ム米國公會マタ諭告ヲ發シ日ヲ期シテ公拜ノ
ノ儀ヲ行ハシム閩國之ニ從フ將軍ソレントニ
盡ク俘囚ヲ釋シ以テ國人ト其喜ヲ俱ニセシム
(聖) 是時ニ當テ英軍已ニ北亞聯邦ノ邊ニ征服
ス可カラサルヲ知り兵鋒漸ク鈍澁ヲ加フ千七
百八十二年三月爵帥ノルス首相ノ職ヲ辭シ内
閣隨テ更迭アリ英王ニ勸諫スルニ止戰ヲ以テ

ス將軍カルレトン在米英軍ノ都督ニ任シ十一
月三十日ヲ以テ和約ヲ假定シ簽名鈴印シテ北
亞聯邦ノ獨立及ヒ主權ヲ公認ス千七百八十三年
九月三日ニ至リ米官アダムスフランクリン
ジェー及ヒロウレンス英臣オスワルドバムルサ
イルスニ會シ更ニ和約ヲ確定シ聯疆十三州ヲ
以テ不羈獨立自主ノ國ト爲スニ至ル
(聖) 米國革命ノ役ソノ局ヲ結フ概チ斯クノ如
シ此後ヤ暴虐不正以テ疆民ヲ收斂スルニ起リ
疆民遂ニ其自由ト主權トヲ全フスルニ至テ事

乃チ平キ大英ヲシテ獨リ其新疆ヲ喪ハシムル
 ノミナラス為ニ英貨一億磅ヲ消費シ臣民五萬
 餘人ノ生命ヲ絶タシメノ米國ヲシテ許多ノ生命
 財產ヲ亡ビ熱心以テ敢テ備ナキノ戰ヲ開キ千
 辛萬苦一トシテ冒サ、ルナキニ至ラシメタル
 モノナリ即チ不幸苛政ニ困ム者ヲ鼓舞シテ其
 羈軛ヲ脱セシメ無道以テ民權ヲ壓シ武斷以テ
 收歛ヲ行フ者ヲ箴ムルノ變亂ト謂フ可キナリ
 因テ茲ニピット（原）阿弟ピットノ語ヲ引用シ以テ
 之ヲ評スヘシ即チ其言ニ曰ク是レ不正ニ胚胎

シテ蠢愚ニ發達シ其極ヤ終ニ殺戮焚掠ハ迹ヲ
 留ムルニ過キス英國血ヲ流シ財ヲ費シ一モ得
 ハ所ナク但カ勝敗相踵クハ慘狀ヲ見タルハミ
 然リ而シテ其勝ツヤ一時自由ヲ慕ハ所ハ良民
 ヲ壓スルモハニシテ遂ニ能ク之ヲ戡定スルニ
 アラス其敗ルハヤ以テ永世ノ汚辱ヲ買フモハ
 ニシテ國人ヲシテ不義ハ戰ニ貴重ハ近親ヲ亡
 フヲ悲シマシメタルニ外ナラサルナリ

西史肇要卷六終

